

---

# **プリキュアオールスターズ 出現！最強のプリキュア**

ALST G

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ 出現！最強のプリキュア

### 【Zコード】

N6079X

### 【作者名】

ALST G

### 【あらすじ】

400年前、地球上には数多のプリキュアがいた。しかし、あるプリキュアの出現によりほとんどのプリキュアが消えてしまった。そう、最強のプリキュアが倒されてしまったからだ。しかし、そのプリキュア達の活躍により最強のプリキュアは消えたかに見えていた。しかし、400年後、そのプリキュアは何者かに甦ろうとしていた。この物語はこの世界に生きるプリキュア達が400年前に消滅されたはずの最強のプリキュアに立ち向かう戦いの物語である。

## プロローグ（前書き）

最初のモチーフはあの大戦です

プロローグ

今より400年前、初代砂漠の使徒の幹部、サラマンダー男爵がデューンの怒りを買い、追放された後、キュアアンジェによつてモン・サン＝ミシェルの礼拝堂に封印されてから、数カ月後、知られていない戦いが起きていた。

舞台はフランス

この時代のブリキュア達はとある敵と戦おうとしていた。それは・

「はあああ！－！－！」

ノギイ

「サケンナアアアアア！」

黒い衣装を纏つた茶髪のプリキュアは、後の時代に現れるザケンナーと戦っていた。そのザケンナーを黒い光の拳で吹き飛ばした。それをフォローするのは白い衣装を纏いし黒髪の少女とピンクの衣装の金色の少女。白い衣装の少女は自身より大きい相手の拳をいなし、それを柔軟な体を使って脳天に叩きつけられた。ピンクの衣装の少女は怪物たちの攻撃を光のバリアで遮断し、今度はその光で怪物の動きを封じた。

「へりやああああああ！」

別の場所では赤紫の衣装を纏つた茶髪のプリキュアは後の時代に現れるウザイナーと戦つていた。そのウザイナーを精霊の力を込めた拳で吹き飛ばし、さらに

「逃がさないよ」

茶髪のプリキュアが高く飛びたつと同時に光を纏い、瞬時に黄緑の衣装へ姿を変えた。そして上空に待機している水色の羽衣を纏ったポニー・テールのプリキュアに合流し、ウザイナーに月の光とカマイタチを放ち、ウザイナーを消滅した。

「はああああああーーー！」

違う場所では、蝶と薔薇の意匠を取り入れたピンクの衣装のプリキュアがコワイナーと戦っていた。その周りには赤い衣装を纏ったショートヘアのプリキュア、黄色の衣装を纏った髪をショーン風にしたプリキュア、緑の衣装を纏ったボブカットのプリキュア、青い衣装を纏ったポニー・テールのプリキュアが戦っていた。

「まったく、これだけの敵を用意するなんて、相手は相当の自信があるみたいですね」

「そうね、全く何を考えているのかしら」

赤と青のプリキュアは大量の敵を見てぼやいていた。一方の黄色と緑のプリキュアは

「敵が多くすぎて抑え切れません  
「でも、私達が何とかしないと」

しかし、それも大量の物量には抑えきれず、一気になだれ込もうとしていたその時

「はあー！」

突如、地面が揺れ、周りにクレーターを造られ、コワイナーとホシイナーは転倒した。

「全く、油断しそぎよ」

「ごめん」

ピンクのプリキュアに説教を言っているのは胸に青い薔薇の飾りをつけた紫のプリキュアだった。

「けど、これだけの敵がいるなんて驚いたわ」

「でも大丈夫。みんながいるから」

「そうね、けどあんたらしいわ」

会話が終わると四人のプリキュアと共にコワイナーとホシイナーの大軍の所へ向かった。その一方では

「「「トリプルプリキュアキィイイイク」」

ピンクの衣装を纏うツインテールのプリキュアと青い衣装のサイドボニーのプリキュアと黄色の衣装のショートのプリキュアがナケサケーベと言う怪物を三人がかりの飛び蹴りで吹き飛ばした。しかし、大量の怪物の前に苦戦を強いらせていた。

「周りは敵だらけ。何とかならないの」

弱気になる黄色のプリキュアに青いプリキュアの叱咤がはいる。

「諦めないで！何とかなるから」

「そうだよ。私達は負けないから」

ピンクのプリキュアが青いプリキュアの言葉に続いて言葉を言った  
その時、いないところから人の声がした。

「その通りよ。まだ私達は負けていない」

いつたのは赤い衣装を纏つたピンクの長髪のプリキュアだった。

「アカルンの力を使えば、先行しているプリキュアの所へいけるわ」「じゃあ、それを使って早く、あそこへ行こうよ」「そうね、けど、これだけの敵を何とかしないと」「そうだね。でも、この状況きっと切り抜けるって私信じるから」

四人のプリキュアはナキサケーベ、ソレワターセの大軍に戦いを挑むのだった。そして、最前線では

「てええええりやーーー！」

マゼンタのツインテールのプリキュアがネガトーンを相手に奮闘をしていた。

「もう、突っ込みすぎよ」

「けど、何とかしないことこの辺は滅茶苦茶になるわ」

マゼンタのプリキュアに呆れる白のプリキュアを尻田に青いプリキュアはこの状況を冷静に見ていた。

「けど、やだんはダメよ」

「もうすぐ、他の皆もここへ来ますから無理をしないでください」

そこに藤色の花のプリキュアと金色の花のプリキュアがマゼンタのプリキュアの所へたどり着き、白と青のプリキュアに話しかけた。そして遅れて水色の花のプリキュアとピンクの花のプリキュアが到着した。

「もう、強すぎよ。デザトリアンをたった一人で片付けるなんて」「けど、それだけ頼りになるんです。ですが少し無理をしています」

水色の花のプリキュアとピンクの花のプリキュアが心配している中、背後からデザトリアンが大量に現れた。

「やばつー！こんなに出てくるなんて」

「油断しそぎです！ですが周りには仲間がいます。何とか切り抜きましょ！」

動搖する水色のプリキュアだが、ピンクのプリキュアの言葉で冷静さを取り戻した。

「なんとかやるつしゅー！懸つて来なさい、デザトリアン！」

水色のプリキュアの喝令にてザトリアンに挑むプリキュア達

「全く、何で冷静にならないかしら」

「無理もありません。ですが、彼女はこれで良いんですから」

「そうね」

呆れる藤色のプリキュアを金色のプリキュアがフォローをし、そして・・・

プリキュア達の奮戦により怪物たちは倒された。しかし、消耗は大

きかった

「きつつい」

「もう、疲れた～～～」

「もう、動けないよ～～～」

疲れているプリキュアを知り目に突如なぞの声がした。

？？？「やれやれ、へたれすぎだよ君達」

疲労状態のプリキュアの前に謎の小動物が現れた

「ヌール、貴方の仕業だったの」

ヌール「その通り、この時代のプリキュアの力、見せてもらつたよ。けど、もう充分だよ。ここで消えてもらうよ。もう出てきてもいいよ」

小動物の声に現れたのは一人の少女だった

「どうして、彼女が」

ヌール「さあ、君の力でプリキュアを倒して最強になるんだ。そうすれば、この世界は守られる、さあ、やるんだ」

？？？「そりはさせない

謎の声に驚くヌール

ヌール「うわっ！？びっくりしないでよ。君が現れるかと思ったよ

キュアミネルバ」

ミネルバ「ヌール、貴方達の好きにはさせないわ」

そつ言つと、周りにはたくさんのプリキュアがいた。そこには黒い花のプリキュア、緑の衣装を纏った緑の長髪のプリキュア。手にメダルを持つ紅いプリキュア、緑と黄色の衣装を纏ったオッドアイのプリキュア、赤と青の衣装を纏ったオッドアイのプリキュア、橙と紫の衣装を纏ったオッドアイのプリキュア、藍色の衣装に星を模つた髪飾りを持つプリキュア、青と紫の軍服風の衣装を纏い、二丁拳銃を持つプリキュア。マントを纏う天使と騎士を模した衣装のプリキュア、結晶の小手を持つ、橙色のワイルドな雰囲気のプリキュア、マゼンタの衣装を纏い、カードを手にしたプリキュア。宇宙の力を宿し、黒を基調とし、銀色の髪のプリキュア。銀色の鎧をまとい、ヘルメットを装着したプリキュア、真紅のドレスを纏い、炎の扇を手にしたプリキュア。乳白色の衣装に鏡を持ったプリキュア。銀色の鎧を装備し、小手をもつた金髪のプリキュア。さらに純白のドレスを纏い、シンバルを手にしたプリキュア。青い衣装に右手に長剣をもつたプリキュアなどといったプリキュアたちだった。

ヌール「ほう、こんなに仲間がいるなんて驚いたよ。けど、彼女の敵ではないよ」

ミネルバ「彼女？」

ヌール「そう、僕が契約したプリキュアなんだ。僕についてくれば世界は思うがままだよ」

ヌールの言葉に怒りを覚えるミネルバ

ミネルバ「ふざけるな！プリキュアは私利私欲で使うべき物ではない！止めるんだ、お前はそんな奴の好きにしてもいいのか」

ミネルバの言葉を知り田に謎の少女は感情なく言った

？？？「何でそんな事を言つの？」ヌールは私を信じてくれたのよ。

邪魔しないでよ」

ミネルバ「くつ、もうあいつの操り人形になつてしまつたか。仕方ない、攻撃を仕掛けろ！全員突撃せよ！」

ミネルバの号令に掛け、攻撃を開始するプリキュア達。それを疲労状態のプリキュアは歯がゆく見ていた。

「私達、何も出来ないの？」

「彼女が私達の敵になるなんて・・・」

「悔しい、何とかならないの・・・」

無力感にひしがれるプリキュア達、そんな状況を戦っているミネルバはある事を言つた。

ミネルバ「貴方達、撤退して。ここは私達が何とかするわ」

ミネルバの言葉に反論する黒い衣装のプリキュア

「どうしてなの！なんで私達が撤退しなければならないの！？私達は戦えるよ！」

ミネルバ「ダメなんだよ！」

「・・・・・」

ミネルバ「今の貴方ではヌールはおろか、彼女には勝てないんだ。だから、撤退して」

「でも・・・」

ミネルバ「大丈夫、私にはあれがある。そして、近い未来、貴方達の力を受け継いだプリキュアがきっとあいつを倒してくれるはずだ。だから、今は逃げて。そして貴方達はこれから時代に必要なんだから」

ミネルバの言葉を聞き、黒い衣装のプリキュアは決意する。

「今は撤退しよう。いつか、ヌールを倒すために」

「わかつたわ」

「ここは撤退しよう」

撤退を決意するプリキュア達、その一方で、

ヌール「仲間を撤退するなんて余裕だね。けど、持つのかい」  
ミネルバ「いいえ、充分よ。みんな！」

一同「うん」

ミネルバ「私たちの力で世界を守るのみ」

そういうとミネルバ達は光に包まれ、そして

ミネルバ「奇跡の光よ。悪しき者を消し去れ！」

ヌール「こんなのって認めないよ――！」

ミネルバ達の光によつて、ヌールと謎の少女は消滅した。かくしてプリキュアたちによつて世界は平和になつた。ミネルバを初めとする数多のプリキュアの犠牲によつて

しかし、それは戦いの序章に過ぎなかつた。

## プロローグ（後書き）

そして、舞台は400年後へ

始まりは豊海市より（前書き）

物語は現在へ

## 始まりは星海市より

400年後、舞台は日本のある都市、星海市より始まる。

きれいな海が臨む、煌びやかな街、星海市。ここは、400年前、ある伝説の戦士たちがここへ暮らし、その後、あらゆる世界へ渡つたといわれている。曰くつきの街である。

そんな街のストリートにある三人はここへ来ていた。

？？？「ここが星海市か、大都市なのにきれいな街だね」

茶髪のロングヘアの少女の名は北条響。メイジヤーランドに伝わった伝説の戦士、スイートプリキュアの一人、キュアメロディである

？？？「珍しいわね。響が食べ物以外に興味が湧くなんて、明日は雨でも降るのかしら？」

響「奏、それどういう意味？まあ、この街のお菓子のは気になるけどね・・・」

響をからかったのはオリーブグリーンの髪の少女、南野奏。彼女もまた伝説の戦士、スイートプリキュアの一人、キュアリズムである。そして、

？？？「まったく、二人共はしゃぎすぎよ」

猫？「そういうセイレーンだって、この街へ来てから嬉しく笑っているんじゃニャいが」

エレン「まあ、否定しないわハミィ。だってこの街の雰囲気、マイナーランドにはないから」

ハミィ「確かにそうニャ。ここは何となくメイジヤーランドを思い

出しそうな雰囲気」「やんだし」

響と奏の掛け合いに呆れていた少女は黒川エレン。本来の姿はセイレーン。かつては響や奏達の敵、マイナーランドの幹部であり、マイナーランドの歌姫であった。しかし、大事な友達であるハミィを救いたいと言う思ひが、彼女を三人目のプリキュア、キュアアビートとして覚醒したのだ。

そして、そのエレンに話していた猫みたいな生物が、エレンの友達であるハミィ。彼女はマイジヤーランドの妖精であり、歌姫である。そんな彼女達が、何故この街へやつて来たのかと言つと・・・

？？？ 4 「響、奏、エレン。こっちだよ」

響「あつー・ラブじやない」

響達を呼んだのは桃園ラブ。そう彼女もまたプリキュアである。最も彼女はマイジヤーランドではなくスウェーツ王国に伝わる伝説の戦士、キュアピーチである。

ラブ「待つてたよみんな。さつ、今から星海市の街へ観光へ行くよ」  
響「ちよつとラブ、引っ張らないで」

ラブに無理やり連れてかれる響。そんな状況を三人の少女が見ていた。

？？？ 「もう、ラブつたら。響達に出会えたからつっこみにはしゃいじやつて・・・」

？？？ 「仕方ないよ美希ちゃん。だって、私達もエレンと初めて会うんだから」

？？？ 「そうね。私も前からマイジヤーランドやマイナーランドの人、一度でも会つて見たかったの」

美希「そうなのせつな？」

せつな「そうよ。ラビリンスが総統メビウスに支配されていた頃は、他の世界の交流がなかつたの。それに」

美希「それに？」

せつな「エレンと雪の子がどちらも気になるの」

美希「そつか。エレンって子。昔のせつなを思い出すからな」

せつな「そうよ」

「？？？」「やうなんだ。それだと、何かほつとけないよ。じゃあ、これを機にエレンちゃんと仲良しにしましょ」

美希「仲良ぐか、それもやうねブッキー。今日は響達に観光を付き合いましょ」

ブッキー「やうだよ。今日は思いっきり楽しもうよ」

この三人の少女、蒼乃美希、山吹祈里、東せつな。彼女達はラブをリーダーとするダンスユニット、クローバーのメンバーであるが、彼女達にはもう一つの姿があるのだ。それはスウィート王国に伝わる伝説の戦士、キュアベリー、キュアパイン、キュアパッシュョンである。ただし、東せつなだけはラブ達の世界の人間ではないのだ。彼女は先に出たラビリンス出身の少女であり、彼女もまたかつてはラビリンスの幹部、イースとしてラブ達と敵対していたのだ。しかし、総統メビウスによつて規定された寿命が縮められ、ラブとの最後の戦いで寿命がなくなり、それをアカルンによつて生き返り、キュアパッシュョンとして転生した過去があつた。そのため、せつながエレンの事を気にするのも無理はないのだ

さて、ラブがはしゃいでいる間である動物はラブのバッグの中であちこち動かされていた。そんな事態にその動物はラブに文句を言おうとしていた。

「？？？」ちゅっ、ペーチはん。はしゃぐのもええけど、すこしはわ

いの事、大切に扱わんかい！」

その動物の声を聞き、我に返るラブ

ラブ「あつ、ごつめ～ん。タルトの事忘れてた」

タルト「忘れてたつて、幾らなんでもあかんやろピーチはん。少し  
は人のこん考えんかい」

ラブ「本当に」めん。後で星海市にあるドーナツショップにも寄る  
から」

タルト「まあ、ええけど。もう乱暴に扱わんよつ氣をつけてくれへ  
んか」

タルトの存在に気づいたエレンはラブの方に近づいた。

エレン「ねえラブ？ なにこのイタチは？」

タルト「イタチとは失礼や！ わいはなスウェーツ王国の105番目  
の王子、タルトやー！」

エレン「王族？」

タルト「そやーちなみにわいはバルミエ王国のココはんやナッシは  
んとは知り合いやで。あとカオルちゃんといつ兄弟分もおるで」  
ラブ「そうなのよ。王族の関係者は多いのよ。あと、メッブルとミ  
ップルも王族に入るから」

エレン「あのイタチ、知り合いが多いんだ」

タルト「だから、イタチちやうわ」

響「もうエレン。からかうのはそれくらいにしてよ。ラブが困って  
いるじやない」

ラブ「いいよ、気にしてないから」

響達の会話を見ていた奏はすこし寂しさを感じていた。

奏「もう、一人共。何をしてくるのよー。私達も早く行動しないと、つて何あの動物」

奏の前に現れた謎の生物。それはまるでぬいぐるみみたいな物が浮遊していたのだ。そして奏での前で可愛らしい声を発するのであった。

????「プリップー」

その声を聞いていた奏はとんでもない行動を起しちゃう。

奏「かつ」

????「キュア?」

奏「かわいい〜〜〜」

????「キュアー!」

奏の意外な行動に驚くハミィ

ハミィ「奏、おちつくニヤ」

奏のどちらもない行動で悲鳴をあげるぬいぐるみらしき生物。その事態に気づいたブツキーはシフォンの所へ向かった。

ブツキー「ちよつと奏ちゃん、ダメだよシフォンちゃんを泣かしちや」

奏「えつ、この動物、シフォンって名前なの?」

ブツキー「そうなの。シフォンちゃんは今幼児くらいなの。けど泣かすのは良くないよ」

ブツキーの説教を聴いて我に返る奏

奏「御免なさい。我を忘れてこんな事をしてしまつて」  
ブッキー「いいのよ。何かシフォンちゃんも奏の事、気に入つてい  
るみたいだし」  
奏「そうなの？」

そんな騒ぎの中で美希は響達にある事を知らせた

美希「みんな、もう騒ぎはそこまでにしなさい。今日は観光をしな  
がら、他の仲間に会わなきゃならないのよ」

エレン「えつ、他にもいるの？」

美希「そつよ、どんな人かは後のお楽しみよ。行きましょ」

この騒ぎの中でも響達は上手く行つていたかのように見えていた。  
しかし、そんな騒ぎの裏で、あるおもちゃ店では、謎の動物がとあ  
る白いライダーの玩具の前でつぶやいていた。

？？？「星海市、どうやら僕が求めていたはずの人間がここにいる  
街。さて、彼女を呼ぶため、少し遊んで見よつか」

そう言うと謎の動物から黒い光が放ち、白いライダーの玩具に入つ  
ていった。

既に悪意は動き始めようとしていた。

## 始まりは星海市より（後書き）

次はエレンと同じといわれるあのメンバーパートです。  
白いライダーは言つまでも無く現在放送中のあの作品です。  
その白いのがスイート組とフレッシュ組の最初の相手です。

## 博物館の出版物（叢書）

Hランと回りじと書かれるキャラ。それは美々野ぐるみの事  
やつ、GOGO組といふSの話である

響達がラブと一緒に行動を始めようとしていた頃、星海市の中心部にある博物館。通称スター・オーシャン・ミュージアム。

その中では、六人の少女と一人の青年と一人の少年が博物館の中を見学していた。

そして、広間の一隅ではしゃべピンクの髪の少女の行動を茶髪のショートの少女が抑えようとしていた。

「？？？」「ひ、のぞみ！ はしゃぎすぎないで！」

のぞみ「だつて、りんちゃん。この博物館、色々ありますからを見るべきか迷っちゃうもん」

りん「そりや そうだけとね。でもね、のぞみ。はしゃぎすぎて他の人に迷惑をかけるのはよくないんじゃないの」

のぞみ「そうだけど~」

今のピンクの少女は夢原のぞみ。彼女はパルミエ王国に伝わる伝説の戦士、プリキュア5のリーダーであるキュアドリームである。そののぞみの行動をいさめようとした茶髪のショートの少女は夏木りん、のぞみの幼馴染であり、プリキュア5の一員、キュアルージュである。

そんな一人の行動を紫の少女と茶髪の少年は呆れて見ていた。

「？？？」「まったく、のぞみったら。相変わらずはしゃいじやで」

「？？？」「そういうのもむりないだろくるみ。この博物館はこれだけいい物が揃っているからな」

くるみ「シロップ、確かにそうだけど」

シロー「それに今日は休日だから人が集まるんだ。にぎわっているのも仕方ないだろ」

シローとなるる少年。本来の名はシロップで人間時の姿は甘井シローと名乗っている。彼は運び屋の仕事をやっている少年である。普段は後で触れるナツツハウスで同居しており、学園が開いている間は、サン・クルミエール学園の食堂で働いている。彼はキュアローズガーデン出身だったが、エターナルの上層部、アナコンディのいざこざに巻き込まれ、一時はキュアローズガーデンに関する記憶を失っていた過去がある少年である。

ちなみに彼は人ではない。本来の姿はオレンジのペンギンに似た姿であり、さらに大きいツバメに似た姿になれるのだ。ちなみに彼はうららの事を気にしている。

そして、そのシローに話しかけた紫の少女は美々野くるみ、彼女はのぞみ達の学校、サン・クルミエール学園に通う生徒である。普段は後で触れるナツツハウスに暮らしている。しかし、彼女はのぞみ達の世界の人間ではない。彼女はパルミエ王国の準お世話役、ミルクであり、本来の姿は白いロップイヤーの兎のような姿である。彼女は本来は後で紹介するココやナツツの様に人間になれるのは出来ないが、のぞみ達がパルミエ王国へ来訪している時にエターナル幹部の一人、ネバタコスの襲撃が起こつてしまつが、その騒ぎの際に青い薔薇の種を拾い、その薔薇の種を育てていた。その時にミルクは青い薔薇の光を浴び、人間になれる能力を得るようになつた。だがそれだけではない。その青い薔薇の光の力により、彼女はプリキュアと同じ力を持つ戦士、ミルキィローズへ変身するようになった。彼女もまた、プリキュアの一員でもあるのだ。

くるみ「それもそうね。この博物館は前からナツツ様が行きたかつた場所だから仕方ないかも」

「？？？」のぞみがはしゃいでいたり、ナツツがココへ行きたかったのも無理ないだろくるみ。「ここは色々な物が集まっているからな」くるみ「ココ様。確かにこの博物館はいろんな物が集まっているみ

たいね。けど、シロップにはちょっと複雑かな」

ナツツ「確かにそうかもしだんな。確かシロップは一時はエターナルの所で働いていたからな。だが、エターナルも今は完全に崩壊したから今は気にしていないみたいだぜ」

ココ「エターナルがいない今はシロップもつらい思いはせずに済んだんからな。もう、過去は振り切ったんだ」

くるみ「そうね」

（でも、私は最初の頃は色々迷惑をかけていたわ。私のトラブルのせいにかれん達がバラバラになってしまったり、カワリーノの策略でドリームコレットが奪われてしまったり、初めの頃はのぞみとは静いが遭つたわ）

心の中では憂鬱になるくるみだったが、そんな彼女に青い髪の少女が声をかける

？？？「気にしそぎよくるみ。私だつてのぞみに会えなかつたら、私はずっと一人だつたかもしれないわ。それにかつての私にも会つた事があるから」

くるみ「かれん」

かれん「くるみ、誰だつて人は嫌な過去があるの。私だつて嫌な過去に押し潰されてしまった事があるの。でも、のぞみやこまち、うららやりんのおかげで助けられた事があるの。勿論くるみ、貴方もよ」

くるみ「そうなの、かれん？」

こまち「そうよくるみさん。かれんには、くるみさんに救われたところがありますから」

くるみに話をかけていたナツツと言つ青年はのぞみの世界とは別の次元にある世界の一つ、パルミエ王国の国王の一人である。人間の時の名は夏。普段はサン・クルミエール学園の近くの池の畔にある

アクセサリーショップ、ナッシュハウスの店長をしている。出会った当初は、のぞみ達に不信を抱いていたが、当時、パルミ工王国を滅ぼした悪の組織ナイトメアに立ち向かうのぞみ達の行動を見て考えを改めた。王国一の読み手であり、多くの書物に精通している人物である。後で紹介する秋元こまちはナッシュに恋心を抱いているのだ。ちなみに本来の姿はりすに似た生物である。

そして、ココと名乗る青年もまた、のぞみの世界とは別の次元にある世界の一つパルミ工王国の国王の一人である。人間の時の名は小々田「ージ。彼は普段はサン・クルミエール学園の教師をしている。彼もまた、ナッシュハウスで暮らしている。のぞみが恋心を抱いている相手であり、くるみにとつてはナッシュと並ぶ尊敬する人物である。その為、くるみはのぞみに対してもみ合ってしまう原因は彼の存在があるが、実際は仲が悪くない。どちらかと言うとけんか友達みたいな関係である。ちなみにココの本来の姿はスピッツ犬に似た生き物である。

くるみに声をかけた青い少女は水無月かれん、彼女はサン・クルミエール学園の生徒会長であり、山や島に別荘を持つ大富豪の令嬢である。くるみにとつては姉のような存在ともいわれている。そして、彼女もまた、プリキュア5の一人、キュアアクアである。

そして、水無月かれんの親友である秋元こまちはプリキュア5の一人、キュアミント。小説家になる事を目標としているおつとりとした性格の少女である。ただし、人には理解できない行動に走ったり、料理に隙あらば羊羹を入れようと企む困った性格の持ち主である。そしてこまちはナッシュに心を惹かれているのだ。

こまちがくるみに話をかけようとしている所を黄色のツインテールの少女がくるみ達の所へ近づいてきた。

? ? ? 「すいません、來るのが遅くなってしまって」  
くるみ「遅いじゃない、うらら

黄色のツインテールの少女の名は春田野うらら。六人の少女の中で一番年下であり、女優になる事を夢見るアイドルである。そして、彼女は、プリキュア5の一員、キュアレモネードである。

うらら「ちょっと、来る途中での一人に出会いましたから」

そこへのぞみとりんもうららの所へ近づいて来た。

りん「うらら、遅いじゃなし。どうしたの？」  
のぞみ「うららも今来たの？」

うらら「ちょっと別行動をしていたんです。のぞみさん達の所へ戻ろうとしている時に一人に会いました」

のぞみ「あの一人？」

うらら「はい、この人です」

うららが連れてきたのは茶髪の元気そうな少女と紫の大人しそうな雰囲気の少女だった。しかし、のぞみはその二人の事をすぐに気づいた。

のぞみ「うわっ！咲ちゃんに舞ちゃん。あなた達もここへ來たの？」

そう、のぞみに声をかけた一人の少女。茶髪の少女は日向咲、泉の郷に選ばれた伝説の戦士、花の戦士キュアブルームと月の戦士キュアライトである。彼女は夕凪中学校のソフトボール部のエースである。

紫の大人しそうな少女は美翔舞、彼女は日向咲と同じ泉の郷に選ばれた戦士、鳥の戦士キュアイーグレットと風の戦士キュアワインディである。

彼女達はプリキュアにしては珍しい一つの形態を持つプリキュアで

ある。そう、彼女達もまた、のぞみ達に面識があり、現在ここへ向かっているラブ達や響達にも面識があるので。

咲「あっ、のぞみ達もここに来てたんだ。こんな所に出会つなんてうれしいナリー」

りん「まったく、咲も相変わらずね。まつ、元気なのが咲のいい所なんだから」

舞「もう、咲つたら。それにしても偶然ね。こんな所でみんなに会えるなんて」

こまち「あいかわらずね舞さん。でも、他のみんなももつすぐここへ来るから」

舞「どういう意味ですか？」

かれん「今、ラブ達と響達がこちらへ向かっているの」

くるみ「それだけじゃないの。今、なぎや達やつぼみ達もここへ向かう予定なの」

咲「ひょっとして、ここで待ち合わせの予定があるの？」

のぞみ「そうだよ。博物館の前の広場で集合するの。来たらきっと

驚くよ」

りん「そりや、そうでしょ。もしかしたら、ちゃっかりあの小学生も来てたりして」

咲「小学生？」

くるみ「何か、響達のいる町、加音町で、黒いブリキュアの正体が小学生ではないかと噂されているの。ナッシ様が作つておいたミルキイノートの検索機能で調べているけど、中々正体が解らないの、ある人はスイーツ部の部長とか」

りん「私と同じ、フットサル部の部員じゃないとか」

舞「なんdirんさんが割り込むの？」

りん「悪い悪い、私もフットサル部の練習試合の時に加音町へ行った事があるので。その時にミユーズの正体と噂されている人に会った事があるので」

のぞみ「そつなんだ。りんちゃんすごいよ。もしかしたらユーズの人に会えたかも」

りん「そつかも知れない。けど、でも確証がないんだ」

うらら「やっぱり、証拠がないのですか」

りん「そつ、何か確定になりそつのがないのよ」

少女達が会話に夢中になつてゐる時、大人しくしてゐたシロップは口を開いた

シロップ「お前ら、会話に夢中になるのはいいけどよ、後ろ詰まつてるぞ」

のぞみ「うしろへって、うわっ！」

のぞみ達の後ろには人が詰まつていた

咲「人、たくさんいるナリ・・・」

くるみ「は、早く行きましょ・・・」

後ろの人だかりを見たのぞみ達ははやく次の場所へ進むのであつた。しかし、ココとナツツだけは違つっていた

ココ「・・・」

ナツツ「どうしたココ？」

ココ「おかしい？誰かに見られているような気がするんだ」

ナツツ「気のせいだろ」

ココ「気のせいか。ならいいが（何かいるようなのに、いない気がする。何故だ？）

ココ達が不安を抱いてる頃、博物館の一角、大航海時代の展示会場では謎の生物が海賊船の模型を見ていた

？？？「海賊船か。何か利用価値あるな。そうだ、ジェット機とレーシングカー、トレーラーと潜水艦と合成して強いの創ろうか。後はドラゴンの模型とパトカーとライオンの剥製と武者人形と忍装束とレースカーも利用するか」

その生物は海賊船に黒い光を浴びせると、すぐにこの場から消えていった。この海賊船がのぞみ達に災いをもたらす事を知らず

## 博物館の出会い（後書き）

この海賊船もまたやばいフラグ。  
そして、いよいよ、あの一組が来ます。

## 動物園の玉盆ご（繪書）

◎JNR 1組、MTR組とEJC組登場

## 動物園の出会い

のぞみ達と咲達が博物館で見学している頃、星海市の中心地に近い動物園では園内の時計がある広場で待ち合わせをしている三人の少女がいた。

？？？

「遅いですねつぼみさん達。そろそろ来てもいい時間ですが、どこへ寄り道をしているのでしょうか？」

？？？

「ひかり、ここは広いから多分つぼみ達は迷っているルル」

広場で待ち合わせをしている金髪のお下げの少女は九条ひかり。普段は藤田アカネのいとことして「TACO CAFE」で手伝いをしながら同居している、一見大人しそうに見える少女であるが、彼女の正体は光の園のクイーンの「生命」にあたる存在である。彼女はなぎさ達の交流によって、クイーンの力を取り戻し、ジャアクギングとの最後の戦いでは、クイーンとして覚醒していった。そして、ジャアクギングを倒した後はクイーンとは別の存在としてなぎさ達の元へ戻って来た。

そして、ひかりに抱きかかえているぬいぐるみみたいな物はルルン。彼女は光の園からやつてきた「未来を紡ぐ光の王女」である。普段はコンパクト型のアイテム「ミラクルコミューーン」の姿をとっている。

その近くには、黒髪のロングの少女と茶髪のショートの少女がいた

？？？

「そう言つのも無理ないわ。星海動物園は広い上に、近くには植物園。少し歩くけど水族館もあるからね」

？？？

「それもそうだね。こんだけ広いと迷った時、大変な事になるから」

黒髪のロングの少女は雪城ほのか、彼女は光の園に伝わる伝説の戦士の一人キュアホワイトで。足技や回転系の技を得意とし、柔軟な体を生かし、敵をいなす合気道系の技を使う技巧派の戦士である。茶髪のショートの少女は美墨なぎさ。彼女は光の園に伝わる伝説の戦士の一人、キュアブラック。彼女は自身のパワーを活かし、強烈なパンチやキックで戦い、その破壊力は、ミルキィローズには劣るが強力である。この二人は全プリキュアの中では最も体術に優れたプリキュアである。しかし、彼女の前には歴戦の戦士とも言えるプリキュアがいた。その人は既にここへ来ていた。

？？？

「その通りよなぎさにほのか。のぞみだつたら迷いかねないわ」

ほのか

「ゆりさん、それは言いすぎですよ」

なぎさ

「それにのぞみがいたら、怒りそうですよ」

ゆり

「そうね、流石にそれはないから・・・」

なぎさ達に話しかけたのは月影ゆり。彼女はココロの大樹に選ばれた伝説の戦士の一人、キュアムーンライトである。三年前に父が行方不明になつた後、プリキュアとして選ばれ、たつた一人で砂漠の使徒と戦つていた。しかし、プリキュアパレスの試練に向かう時に、サバーブ博士によって作り出されたプリキュア、ダークプリキュアに襲撃され、パートナーであるコロンを失いも自身も一時は変身能力を失つてしまふが、ココロの大樹の力とココロポットによつてプリキュアの種が修復され、戦線に復帰する。しかし、彼女には残酷

な運命が待っていた。ムーンライトを敵視するダークプリキュアの正体がじつはゆりの一部と実はゆりの父であった月影博士の手に作り出された、いわば姉妹のような存在だった事やサバーブ博士が実の父であり、その父を砂漠王デューンによって殺され、一時は復讐鬼になりかけていたがつぼみの説得によつて復讐を乗り越えていつた。

そして、三人の少女がなぎさ達の所へ来た。三匹のぬいぐるみみたいな物と一緒に。

？？？

「なぎさんにお手を。遅れてしまつてすいません。えりかが色々寄り道してしまつて」

えりか

「つぼみ、だつてここの色々見たい所が多くんのよ

なぎさ

「それもそうだね。ここはいろんな物が集まるんだからね」

？？？

「そうですね、何かパリでファッショントリニティショーエに来ていた時の事を思い出しますね」

つぼみ

「その時はサラマンダー男爵の事やオリヴィエの出会い」とががありましたね。そういうつづきも気になる所あるのですか？」

いつき

「ええ、いくつもありますよ。ポプリもこうこうやかな場所が気になつていますから」

ポプリ

「今まで出かけてみたけど、星海市はなんか氣にいったでしゅ」

コフレ

「そうですっ！。何か、この街はまるで心地いいんですつー」

シフレ

「私もですっ！」

つぼみ

「そうですね。もし機会があつたらファッショングループの皆も一緒に連れて行きます」

えりか

「それ、いいねつぼみ。今度来る時は他の皆も連れて行こうよ」

その三人の少女。ピンクの少女は花咲つぼみ、彼女はココロの大樹に選ばれた伝説の戦士キュアプロッサム。素直で礼儀正しい御嬢ちゃん子である。彼女は初変身した時は力を制御できずに振り回され、砂漠の使徒からは「史上最弱のブリキュア」と言う不名誉な称号を得てしまった事があった。

青いウエーブのロングヘアの小柄な少女は来海えりか。彼女はココロの大樹に選ばれた伝説の戦士キュアマリン。明るくマイペースなお節介焼きである。ファッショングループの姉を持ち、自身もファッショングループデザイナー兼スタイルリストになる夢を持つ。しかし、彼女には悩みがあった。背の低さに悩まされていたからだ。もっともえりかより背の低い人が近いうちに現れれば、悩みはなくなるかも知れない。

そして、茶髪のショートの少女は明堂院いつき。明堂学院の理事長の孫で、実家は明堂院流古武術の道場である。道場の跡継ぎになる為、学園では男装をしており、その影響で、一人称は僕である。そして、彼女もまたココロの大樹に選ばれた伝説の戦士、キュアサンシャインである。

そしてぬいぐるみみたいな物で、ピンクの装飾品を付けた方はシフレでつぼみのパートナー妖精、青い装飾品を着けたのはコフレでえりかのパートナー妖精。そして、金色の装飾品を付けたのはポプリでいつきのパートナー妖精。シフレとコフレの妹分である。

ひかり

「それは悪くあつませんね。なぞれわざとほのかさむじつけの  
じうじょうか？」

ほのか

「いいわね、」の提案。次来る時はそつしたいにナビ、なぞれわざ？

なぞれ

「あたしもこいわ（でも、藤P先輩を誘つてもこいのかな・・・）」

ほのか

「なぞれ、じうしたの？..」

なぞれ

「なんでもないから」

ひかり

「？？？」

えりかの提案にほのかとなぞれは賛成するが、ひかりは、なぞれが  
何故赤面したのかを理解する事ができなかつた。  
そして、ゆりはなぞれ達に声をかけた。

ゆり

「無駄なお喋りはそこまでにしなさい。そろそろ、のぞみや咲がい  
る所へ行くわよ。もしかしたらラブや響と合流するかも知れないわ  
つぼみ

「解つてこます。なぞれわざんも行きましょ」

なぞれ

「え、ええ」

ゆり達の命令で、集合したなぞれ達は、のぞみ達がいると思われる  
博物館へ向かおつとした。しかし、その裏では

水族館にて

従業員

「おかしいな。記念品のメダルはどこ行つたんだ？」

従業員

「解りません。何処かへ紛失したようです」

水族館ではメダルが紛失する事件が起きていた。そこには、謎の小動物がメダルと動物のポスターを手にして隠れていた。

？？？

「メダルに動物。これを合成したらどんな物が出来るのかな」

するとメダルとポスターに黒い光を浴びせた。すると、七体の怪物が誕生した。その怪物は、とある目的で外へ出た。

## 動物園の出会い（後書き）

次回、戦闘開始。まずはスイート組とフレッシュ組から

## 予兆 フレッシュ&スイート編（前書き）

戦闘開始の前触れ。ラブ達と響達編です。

## 予兆 フレッシュ&スイート編

なぎや達とつぼみ達が、博物館へ行こうとしていた頃。響達はラブ達の案内で観光をしていた。

現在、響達は商店街でいろんな店を見ていた。

響「うわ～。こんなに店があるんだ」

ラブ「そつなの、ここは色々な店があるの。たとえば」

ラブが右手に刺したのは楽器の専門店で、響はその店を見ていた。

響「いろんな楽器があるんだね。ピアノの他にもギターとか、太鼓みたいなのがあるなんて」

ラブ「響、もしかして楽器に興味があるの？」

響「あるけど、以前の私はそんな物には興味なかつたかも知れないの」

ラブ「どういう意味なの」

何故、楽器の話をして響が暗くなるのか。『惑いつづけの元にそこ』でハミィと奏がやって来る。

ハミィ「それは響が昔は音楽嫌いだったからニヤ」

ラブ「音楽嫌い？」

奏「そう、響は小学校の頃、響のお父さんのすれ違いのせいで響は音楽の才能がないと思い込んでしまって音楽が嫌いになつたの」

ラブ「そうだったの」

奏「けど、音楽に対する愛情は捨て切れなかつたの、そして、ある出来事で響は音楽への情熱は取り戻し、響のお母さんの交流で響はピアニストになるといつ夢を得たのよ」

ラブ「そつか。響は音楽に対してもンプレックスがあつたんだけど、ハミィや奏の交流があつたおかげで立ち直つたんだ。よかつたんじやな・・・ってどうしたの？」

ハミィ「響と奏、ニヤアに出会つた頃は不仲で酷かつたんニヤ」  
ラブ「どういふ事？」

ラブと響が会話をしている頃、Hレンは美希たちと一緒に玩具店にいた

Hレン「ねえ、何でここに来たの？」

祈里「シフォンちゃんが喜ぶ玩具を探しに来たの」

そう言つとHレンをオルゴールのある所へ連れてきた

Hレン「シフォンって、こいつの好きなの？」

美希「そうなの、シフォンはオルゴールの子守歌が好きなの」

Hレン「子守歌か・・・。ねえ、このオルゴール、買ってもいいかな？」

美希「Hレンはオルゴールに興味があるようね？いいわ、買ってもいいわ」

Hレン「ありがとう」

祈里「よかつたね、Hレンちゃん。後はレジに支払いに行きましょ」

Hレン「えつ、そうね」

Hレンがオルゴールを買い、支払いに行こうとしている頃、せつなはある方向に視線を見て、立ち止まつていた。

タルト「どないしたんや、パッションはん。急に立ち止まつて」

せつな「タルト、感じる」

タルト「何がでっか？」

せつな「あれを見て」

せつなが指した先は、男子が欲しがっている特撮番組の玩具がある場所だった。そこから禍々しいオーラが発していた。

タルト「玩具売り場から一体何・・・」  
せつな「伏せて！」

タルトが言いかけたところをせつなはいきなり伏せた。

タルト「な、何や今のは？」

せつな「右手にロケットを持っていた白い奴よ」

そう、タルトはロケットを持った白い奴に襲われたのだ。

せつな「まざいわね。ラブ達にに知らせないと」

そういうとせつなは携帯電話でラブに連絡を入れた。その頃のラブ達はと言つと

ラブ「それじゃ、不仲になつていたのは、待ち合わせの場所を間違えたのが原因だつたの？」

奏「そう、入学式の時、私は桜の木の元で待つっていたけど、その時は校門の反対側にも桜の木があるのを気づかなかつたの」

響「その出来事のせいで私達はしばらくは不仲になつていたの。会えば喧嘩ばかりで、初めてプリキュアになつた時も息が合わないついで、何も出来ずに負けちゃつたの。しかも、初めてなつたのに解散の危機に瀕したの」

ラブ「初めてなつたのにプリキュアを止めるつて、何か、酷すぎよ。もし、ほのかやかれん、くるみやゆりさんいたら一人共、こつ酷

く叱られているわ」

ハミィ「その通りニヤ。実際、誤解を解いても、しばらくな喧嘩をしていたから、元の親友にもどるには時間がかかったんだニヤ」

ラブ「そうだつたんだ。ハミィも苦労してたんだ」

ラブがハミィ達の話をしているとき、ラブの携帯であるリンクルンから着信音が鳴った。

ラブ「どうしたの、せつな？」

せつな「気をつけて、敵が出たの？」

ラブ「敵?どこから現れたの？」

タルト「玩具売り場からいきなり出でてきたんや。なんかロケットを装備した白い者に」

ラブ「白い者?それは今どこにいるの?..」

ラブが携帯で話している所を響が近づこうとするが、響は奏に呼び止められていた。

響「何で止めるの奏?」

奏「だつて、目の前にあれが・・・」

響「あれって、うわつ!な、何でこんな所に白い宇宙飛行士みたいのがいるのよ!?」

響の目の前にいたのは、白い宇宙飛行士に似た格好をし、右手にロケットを携えた腰にスイッチを持つた怪人だった。

ラブ「どうしたの響?なんで驚いている、って何あれ!?なんでこんな所に仮面ライダー?..」

響「違うわよ、この話には仮面ライダーフォーゼは出ないよ!..」

奏「おそらく、その仮面ライダーを怪人みたいな物に変えたのよ!..」

ラブ「せつなが言つていたのはこれだつたんだ」

ラブ達が驚いている所で、美希、祈里、せつな、エレン、タルト、シフォンが合流した。

美希「ラブ、大丈夫?」

エレン「響、奏、無事なの?」

ラブ「大丈夫だよみんな」

響「私達は大丈夫よ」

エレン「よかつた」

せつな「そんな事言つている場合じゃないわ」

祈里「あの怪人がそとに出たら大変な事になるよ。何とか止めないと」

そういうとラブ達は怪人の所へ視線を向けた。

響「子供達が憧れている正義の味方を」

奏「何らかの方法で人々を傷つけるような物に変えるなんて」

エレン「人々に笑顔をもたらす者を悪い事に使うなんて」

響・奏・エレン「「絶対に許せない!」」

美希「その通りよ!」

祈里「みんなの笑顔を守るヒーローを悪い物に変えるなんて」

せつな「人々を不幸にするなんて絶対させない」

ラブ「だから、私達はこんな事態を止めてみせる。みんな行くよ!」

そういうとラブ達は携帯電話、リンクルンを手にして変身コードを言つ。

ラブ・美希・祈里・せつな「「「チョンジ・プリキュア・ビート  
アップ!」」」

響「私達も行くよー」

そういうと響達はハートコンパクトに似たアイテム、キュアモジュ  
ーレを掲げ、変身コードを叫び

響・奏・エレン「「レッシュプレイ・プリキュア・モジュレーション  
ンー」「」

そつこひとラブ達と響達は光に包まれ、衣装や髪型が変化する。

ラブはピンクの衣装を纏い、髪はレモンイエローのツインテールに  
変化し、美希は青いツーピースの衣装を纏い、髪は紫のサイドテー  
ルに変化し、祈里は黄色の衣装を纏い、髪は変化はしないが髪色は  
薄くなり、少しウェーブが掛かり、せつなは赤い衣装に黒いタイツ、  
髪はピンクの長髪へ変化し、そしてラブ達の左胸にはクローバーを  
模したワッペンが装着する。

響はへそを露出したピンクの衣装を纏い、髪はピンクのツインテー  
ルに変化し、奏は白い衣装を纏い、髪はレモンイエローのボニーテ  
ールに変化する。エレンは青い衣装を纏い、髪は淡い紫のサイドポ  
ニーに変化する。そして響達の胸にはキュアモジューレが装着され  
る。

そして、華麗なる衣装を纏つたラブ達と響達は地上に降り立ち、名  
乗り口上を叫ぶ

ラブ「ピンクのハートは愛あるしるしーもぎたてフレッシュ、キュ  
アピーチ!」

美希「ブルーのハートは希望のしるしーつみたてフレッシュ、キュアベリー！」

祈里「イエロー・ハートは祈りのしるしーとれたてフレッシュ、キュアペイン！」

せつな「真っ赤なハートは幸せの証！熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

響「爪弾くは荒ぶる調べーキュアメロディー！」

奏「爪弾くはたおやかな調べーキュアリズム！」

エレン「爪弾くは魂の調べーキュアビート！」

ピーチ・ベリー・ペイン・パッション」「レッスン・フレッシュ

プリキュアー！」

メロディ・リズム・ビート」「届けー三人の組曲ー

スイートプリ

今ここに邪悪なる者に立ち向かう可愛らしく強き戦士達、フレッシュ

ユプリキュアとスイートプリキュアが登場した。

彼女達は突如現れた怪物を倒すことが出来るのか？

## 予兆 フレッシュ&スイート編（後書き）

次回、戦闘開始。因みに、レッラー・フレッシュ・プリキュアのセリフは原作にはありません。

**戦闘前編 フレッシュ&スイート編（前書き）**

フレッシュ組とスイート組、戦闘開始。

## 戦闘前編 フレッシュコ&スイート編

商店街にて仮面ライダーフォーゼに似た怪物に対峙するスイート組とフレッシュコ組

ピーチ「玩具が敵になるのって、トイマジン軍団以来だね」「メロディートイマジンって何？」

ピーチ「ラビリンスと戦つてる時に一時はクローバーストリートにある玩具達が消える事件が起きていたの。その事件を引き起こしていたのはおもちゃの国を支配していたトイマジンと言う怪物だった。一度は倒したけど、メロディ達と初めて出合ったブラックホールの事件で再び現れたの」

メロディー「そつか、あの時ね。私達はトイマジンとは戦つていなかつたんだ。でもそういう敵が居るなんて」

ピーチとメロディーはあの時の話をしていた。そしてベリー達はと言う

ベリー「それにしてもあの仮面ライダーが私達の敵になるなんて「パッショントレーニング」それは違うわベリー。これは仮面ライダーフォーゼの玩具が何らかの理由で怪物化したのよ」

ベリー「えつ、 そうなの？」

パイン「何か、ナケワメークかソレワターセに似ているよ」

ピーチ「確かに似ているけど、何か違う。違和感を感じるよ」

メロディー「かといってネガトーンでもない」

リズム「そうね。ネガトーンだったら不幸のメロディを発するけど

そういう気配がないみたい」

ビート「一体、何かしら。あの怪物？」

ピートが思案している間にも白いライダーに似た怪物はピーチたちを襲おうとしていた

ピート「来るよ、みんな！」

白いライダーに似た怪物は右手にロケットを装備し、ピーチ達の方へ突撃しようとしていた。しかし、その怪物の突進をピーチ達は難なく避けた。

ピーチ「動きは早いけど、当たらなければ大丈夫だよ」

余裕のピーチだがタルトは白いライダーの左手に何か光る物を見た。

タルト「ピーチはん、あの白いライダーの左手に何かを出してきた」

ピーチ「何かつて？」

タルト「左手を見るんや」

白いライダーの怪物の左手にはアンテナらしき物が装着していた

リズム「パラボラアンテナ？」

メロディ「何するの？」

そのパラボラアンテナから光線が発射し、その光線はリズムとパインに当たる。

パイン「キヤ！？」

リズム「何が起きたの？」

光線を浴びてしまったパインとリズムに駆け寄るメロディとベリー

ベリー「大丈夫？」

メロディ「リズム、平氣？」

パイン「当たつたけど、何ともなかつたよ」

リズム「大した事ないから」

メロディ「そつか」

ベリー「ならいいけど」

光線を浴びたが何ともなかつたことに安心するベリー達だが、その時パッシュョンがあることを言つてきた

パッシュョン「氣をつけて！ミサイルが来るわ！」

ベリー「ミサイル？」

よく見ると白いライダーの怪物の右足にはミサイルランチャーが装備していた

ベリー「嘘！ランチャーを装備しているわ

パッシュョン「みんな避けて！」

右足のランチャーから大量のミサイルがピーチ達を襲うが・・・

ピーチ「そんな攻撃、当たるもんですか！」

メロディ「スポーツ万能、舐めないで！」

大量のミサイルを避けたピーチ達だが、避けていない人が一人だけいた

パイン「何このミサイル。私だけ避けきれない」

そして、ミサイルがパインを襲い、そして全て当たつてしまつ

パイン「キャアアアアアアアアア！」

ミサイルに当たつてしまい、落ちていくパイン。落ちていくパインをピーチがキャッチする。

ピーチ「どうしたのパイン？」

パイン「私だけミサイルが全部こっちへ来てしまったの。避けたはずなのに」

ベリー「ミサイルが全部パインに、まさか！？ わつきのパラボラアンテナの光線を浴びたせいで」

タルト「多分、パインはんとリズムはんに浴びせられた光線に当ってしまうと、確実に命中してしまつ効果をもつてしまふんや」

ピーチ「つまり、攻撃が確実に当たつてしまつって事。じゃあ・・・」

「

タルト「多分、リズムはんも同じ効果をもつてしまつるんや」

タルトの話で顔面蒼白になるハミィ

ハミィ「まずじー、メロディにビート！ リズムがバラボラアンテナの光線に浴びせられているー！ リズムを守るんにゃ！」

ハミィの話を聞いたメロディはビートに声をかけた

メロディ「聞いたビート。リズムの方を見てあげて  
ビート「解つたわ」

その頃、ビートは白いライダーの怪物の突進攻撃を避けまくっていた

リズム「駄目っ、避けても避けても、突進が襲つて来るなんて」

しつこい突進攻撃にスタミナが切れてしまつリズム、そして転倒してしまつたリズムに左足にドリルを装備し、右手にロケットを装備した白いライダーの怪物の攻撃が襲おうとしていた。

リズム「しまつた！」

命中されるその時

ビート「ビートバリア！」

ギター型の武器、ラブギターロッドを装備したキュアビートが音のバリアを張らせ、白いライダーの怪物の攻撃をはじき返した。

リズム「ビート！」

ビート「危ないといふだつたねリズム。メロディイ、後はお願ひ」

ビートがそう言つとメロディイは脚にマゼンタのオーラを纏い、白いライダーの怪物の方へ走り出し、そして、ジャンプしオーラを纏つたキックを繰り出した。

メロディイ「食らひなさいー・プリキュア・メロディスマッシュュー！」

メロディイの必殺キックを当てた白いライダーの怪物は吹き飛ばされたはずが、左手にパラシュートを出し、吹き飛ばしの速度を落とした。

ベリー「パラシュート？」

パイン「そついえばこのライダーのモチーフは宇宙飛行士だよ  
パッシュヨン「だから、パラシューートを持つてもおかしくない  
ピーチ「それだけじゃないよ。何か出してきたよ」

白いライダーの右足にはランチャーとは違ひ装備をしていた。その装備から大量の煙を排出してきた。大量の煙に苦しむピーチ達  
ピーチ「げほつげほつ。まさか煙幕装備を出すなんて」  
メロディ「これじゃ周りが見えないよ」  
パイン「まざいのはタルト達だよ。どこにいるの?」  
ビート「煙があつてはハミイが見えない」

大量の煙に苦しまれるピーチ達に悲鳴があがる

? ? ? 「ニヤー！」  
? ? ? 「こらっ離さんかい！」  
? ? ? 「助けて！」  
リズム「ハミイの悲鳴が聞こえたわ」  
パッシュヨン「タルトの悲鳴に」  
ベリー「シフォンの泣き声が聞こえたわ」  
ピーチ「煙が晴れる。見て」

煙が晴れると白いライダーの怪物は右手にマジックハンドを装備し、ハミイ達を捕獲した。左手にはハサミを携えて。

ピーチ「しまつた！」  
メロディ「さつきの煙で私達が混乱している隙に、捕獲するなんて」  
リズム「早く助けないと」

リズムが飛び出さうとするが、ベリーに静止される

リズム「どうして止めるの？」

ベリー「リズム、怪物の脚を見て！」

リズム「脚？」

白いライダーの怪物の右足には音響装置、左足にはスプリングのような物が装備していた。

ベリー「おそらく、これを使って足止めし、そして逃走するつもりよ。動けば音響装置で動きを封じるつもりよ」

リズム「それじゃあ、動けばハミィ達が大変な事に、どうすればいいの？」

白いライダーの怪物に人質にされたハミィ達。動けば大変な事になってしまつ。窮地に立たされたピーチ達とメロディ達はこの状況を開する事が出来るのか？

- - - -

その頃、商店街の外では赤い髪の少女が佇んでいた

????「ここにプリキュアの気配がする。そして、あいつの悪意を感じる。貴方の好きにはさせない」

そういうと携帯電話にカギのような物を差込、ある言葉を言った

????「プリキュアチエンジ」

そして、赤い髪の少女は光に包まれた状態で、商店街に入った。彼

女の正体はいかに？

## 戦闘前編 フレッシュ&スイート編（後書き）

次回

？？？「派手に行つてやるわ

今回のキーマン登場

**戦闘中編 フレッシュ&スイート編（前書き）**

今作のキーマン現る

## 戦闘中編 フレッシュ&スイート編

人質にされたハミィ達。救出を試みようとするが、白いライダーの怪人が何をしてかすか解らないために動けずについた。

メロディ「どうするピーチ、どうやって救出するの？」

ピーチ「動けば音響装置が発動してしまつ。動くだけで鍔でハミィ達を切り刻む恐れがあるわ」

悩むピーチにパッショングが話しかける

パッショング「なら、動かずに白いライダーに近寄ればいいでしょ」

メロディ「方法あるのパッショング？」

パッショング「アカルンを使って、瞬時に白いライダーに近づける。瞬間移動すれば音響装置を発動する前に助けられるわ」

メロディ「なるほど、いい考えね」

パッショング達の会話を見た白いライダーの怪人は左手の鍔をカメラに変えた

ベリー「何で左手をカメラに変えたのかしら？」

パイン「何か目的でもあるのかしら？」

カメラが気になるベリーとパイン。そしてピーチはパッショングにアイコンタクトをした

ピーチ「いい、パッショング。私が合図をしたらアカルンで瞬間移動して」

パッショング「解ったわ」

白いライダーの怪人は、動かず様子を見ていた

ピーチ「気づいてない様ね。今よパッシュヨン」  
パッシュヨン「頼むわアカルン」

アカルンを出そうと動き出す瞬間、右足の音響装置の衝撃波がピーチ達を襲う

ピーチ「何で！まだ動いてないのに？」

強烈な衝撃波に襲われたピーチ達は、店の壁に叩きつけられた

ピーチ「キャア！」  
メロディ「うつ！」

壁に叩きつけられたピーチ達は何が起きたのかわからずについた

ピーチ「一体、何が起きたの？」

パッシュヨン「動いていないのに、衝撃波が来るなんて・・・」  
ベリー「多分、さつき装備したカメラでパッシュヨンの様子を撮影したからよ」

パッシュヨン「私を撮影した！？」

パイン「おそらく、白いライダーの怪物は瞬間移動すると読んで力メラを出したのよ」  
メロディ「それじゃあ・・・」  
リズム「もう打つ手はないの・・・」

瞬間移動による救出作戦が見破られてしまい窮地に立たされるフレッシュ組とスイート組。そしてハミィ達にも危機が

ハミイ「そんニヤ、作戦が見破れるなんて」  
タルト「フォーゼ本編でもカメラは使つとつたんや。撮影する事によつて解析されるとは、これは厄介や」  
シフォン「キュア～～」

そんなハミイ達に左手の鍔がゅつくり近づいていた

ハミイ「ニヤ～～。止めるんニヤ。ニヤ～は食べても美味くないニヤ」

タルト「ちよつ兄さん。わいを食用肉にするのは勘弁してくれや」  
今、ハミイ達は生命の危機に晒されようとしていた。だがその時、一発の銃弾が、マジックハンドのフレームを破壊し、ハミイ達は解放された。

ハミイ「ニヤ―――ってあれ？」  
タルト「わてら無事でっせ」

危機に晒されたハミイが何者かによつて助け出された事に驚くメロディ達

メロディ「なつ何が起きたの？」  
リズム「誰が助けたの？」  
ビート「今のは一体？」

呆けるメロディ達の前にハミイ達を保護した赤い海賊風の衣装を纏い、赤い長髪の眼帯の少女が現れた。

？？？「貴方達の大切な者、助けたわ」

ピーチ「貴方は一体？」

ピーチの疑問に赤い長髪の少女は答える

？？？「教えてやるわ、私の名は」

？？？「変革を呼ぶ自由の海賊、キュアバイレーツ」

赤い長髪の眼帯の戦士、キュアバイレーツの登場に驚くメロディ達

メロディ「キュア・・・」

リズム「バイレーツ？」

パイン「パッション、キュアバイレーツって知ってる」

パッション「知らないわ、そんなプリキュア。ただ、別の世界では様々な戦士に変身するヒーローがいたけど、そういう能力のプリキュアは見たことないわ」

ベリー「確かに」

呆けているベリー達を尻目にピーチはバイレーツに話しかけてきた。

ピーチ「ねえ、貴方は味方なの？」

ピーチの疑問に答えるバイレーツ

バイレーツ「安心して、私は味方よ」

ピーチ「味方？」

バイレーツ「そりよ。もし、信用できないなら私の戦いを見なさい」

そう言うとバイレーツは視線を白いライダーの怪人の方に向き、その白いライダーの怪人と対峙する。果たして、彼女の実力は？

**戦闘中編 フレッシュ&スイート編（後書き）**

次回、パイレーツのターン。  
パイレーツ「派手に行つてやるわ」

**戦闘後編 フレッシュ&スイート編（前書き）**

パイレーツのターン。  
でも、長すぎた・・・

人質にされたハミィを救つたのは赤い衣装を纏つた海賊風の戦士キュアパイレーツだった。

白いライダーの怪物に対峙するパイレーツ。その手には船乗りが使う片刃の剣、カトラスに似た武器を持っていた。その武器を構え、決めセリフを言う

パイレーツ「派手に行つてやるわ」

そして、その武器を携えて、怪人の所へ走る。その白いライダーに片刃の剣、キュアカトラスで斬り付ける。

パイレーツ「はっ！」

パイレーツの剣に斬り付けられ、ダメージを受ける。しかし白いライダーの怪人は左手に盾を出して、剣の攻撃を防ぐ。

パイレーツ「盾で防ぐか。だがこっちの拳はどうかな」

そういうとパイレーツは拳で盾に殴る。防いでも思わず怯んでしまうほどのパワーで仰け反る白いライダーの怪人。動きが止まつたところをパイレーツは携帯電話のような物を取り出し。鍵のような物を差し込もうとしていた。

ピーチ「何、この鍵は？一体何をするの？」

パイレーツ「見せてあげるわ。私の力を」

そして、鍵を携帯電話に差込、あるコードを言つ

パイレーツ「プリキュアチエンジ！」

電子音『キュー アユニアース』

すると、光に包まれたパイレーツは黄色のラインが入った黒い衣装を纏つた銀髪のツインテールのプリキュアに変身した。

違う姿のプリキュアに変身した事に驚くピーチ

ピーチ「何、今のプリキュアは一体？」

『Pユニアース』「これは、違う世界に存在するプリキュア、キュアユニバース」

ピーチ「キュアユニバース？」

パイレーツ「この世界には存在しないプリキュアよ」

メロディ「存在しない？どういう意味なの？」

『Pユニアース』「理由は後で話すわ。今は怪物を倒すのに集中しないと」

白いライダーの怪物は、右手の鉄球を撃ち出し、ユニバースを狙うが

『Pユニアース』「甘いわ」

そういうと回し蹴りで鉄球を打ち返し、鉄球は何故か足元にぶつけた。白いライダーの怪物は足元に鉄球をぶつけられて、何故か痛がっていた。その拍子で音響装置とスプリングは壊された。

ピート「これって何？」

リズム「多分、タンスの角に小指がぶつけられた様なダメージを受けて痛がっているのよ」

ハミィ「何と言つギヤグニヤんだ・・・」

タンスの角にぶつけられてた痛みにやられた白いライダーの怪物。その隙にユニバースは銀の長剣、コスマブレードを召喚し、剣の切つ先に電撃の力が込める。

「ユニバース「食らいなさい。木星の大きいなる力、プリキュア・ジユピター・ボルテージ！」

剣の切つ先に電撃の力を込めて、広範囲に電撃を放射し、白いライダーの怪物にダメージを与えた。パイレーツの戦いに魅了されるベリー達。

ベリー「すごい」

パイン「これがパイレーツの力」

パッション「でも油断しないで。あの白いライダーの怪物の色が変わるわ」

パッションの言つとおり、白いライダーの怪物は、電気を纏つた金色のライダーの怪物になつた

ベリー「き、金色になつた！？」

パイン「電気を纏つているよ」

金色のライダーの怪物は左手にワインチを装備し、ワインチロープでユニバースを捕らえた。

ユニバース「捕縛攻撃か！」

そして、右手の電気ロッドをワインチのロープに部分に触れさせ、電流を流した。

タルト「あかん！」のままでは黒焦げや」

電流がユニバースに襲おうとするが、ユニバースの手に携帯電話を出し、縁の鍵を差し込んだ。

Pユニバース「プリキュアチャンジ！」  
電子音『キュー』エルス！』

電子音がなったと同時に電流を当てたユニバース。しかし、次の瞬間、ユニバースは縁の衣装を纏つた縁の長髪のプリキュア、キュアエルスに変身した。

Pエルス「残念だったね。そんな電流、効いてないわ」

エルスに変身した事により電流ダメージを無力化したのだ。

ベリー「今度は縁のに変身した！」  
パイン「一体どうなっているの？」

電流攻撃を無力化された事によって混乱する金色のライダーの怪物  
Pエルス「今度はこっちの出番よー！」

そういうとエルスの周りに電流が纏い、瞬間移動をして、連続攻撃を仕掛ける。

Pエルス「はあああ！」

装備を仕掛ける暇もなくやられる金色のライダーの怪物。エルスの

電撃キックで吹き飛ばした後、エルスの手に緑のロッドを叩撃する。

Pエルス「ライターングロッド…」

そして、ロッドから緑の刀身が展開し、大剣形態に変形する。そして、さつき纏つた電撃を刀身に纏い、刀身を巨大化する

Pエルス「食らいなさいー！プリキュア・ライターングスラッシュヤー・オーバードライブ！」

かなりの長さになつた雷の刀身を持つた剣を金色のライダーの怪物に斬り付ける。そして大ダメージを受ける。

パッショń「他のプリキュアの力を使うとはどんでもないね」

ピーチ「パッショń。今度は赤くなるよ」

パッショń「赤い？」

ピーチの言つとおり、今度は赤くなつたライダーの怪物は銃を装備し、水と火の弾丸を放つ。さらに、ミサイルランチャーとガトリングガンを発射する。

パッショń「本当に赤くなつた」

メロディ「今度は火と水の球が来るわ」

タルト「おまけにさつきのミサイルに加えて機関銃まで来おつたわ」

ハミィ「どうやつて防ぐんニヤ？」

弾丸が来る中、エルスは携帯電話を持ち、今度は赤と青のツートンカラーの鍵を差し込む

Pエルス「プリキュアチエンジー！」

## 電子音『キューアブレイズ』

今度は右半身が赤で左半身が青の衣装を纏い、赤と青に分かれた三つ編みに赤と青のオッドアイのプリキュア、キュアブレイズに変身した。

ビート「ひつ！？何よ、あの妖怪半分こ女は」「リズム」「ビート、これもプリキュアよ」

ビート「これもプリキュアなの！？」

Pブレイズ「まずは炎で叩き落して」

そう言つと右手から炎が発射し、ミサイルや弾丸を撃ち落し

Pブレイズ「間に合わないなら」

今度は左手から氷の壁が発生し、弾丸を全てプロックする。

ベリー「炎と氷を同時に使うなんて」

パイン「普通のプリキュアにはそんなの出来ないよ」

Pブレイズ「さて、そろそろ決めてもらうよ」

そういうとブレイズの手には片刃の剣、ブレイズソードを手にし、赤いライダーの怪物の方へ走った。

Pブレイズ「炎と氷の力、受けてみなさい！プリキュア・ブレイズスラッシュ！」

赤いライダーを炎の剣で斬り付けた。そして次の瞬間、剣の軌道か

ら冷氣が発生し、瞬時に凍らせて、大ダメージを『えた。これにより白いライダーの怪人に戻る。

ピーチ「圧倒的だね。これじゃ私でのば・・・」  
ロブレイズ「いいえ、あるわ」

そういうとブレイズはパイレーツの姿に戻り、ピーチ達に言葉をかける

パイレーツ「止めは貴方達に任せん。私では玩具だと破壊しかねないでな」

パイレーツの言葉を聞いてピーチ達は皆に言葉をかける

ピーチ「解ったよパイレーツ。後は皆で決めるよ」

そういうとピーチはロッジ型の武器、ピーチロッジを出す。そしてベリーは剣型の武器、ベリーソードを出し、パインは笛型の武器、パインフルートを出し、パッシュョンはハープ型の武器、パッシュョンハープを出す

メロディはピンクのステイック型の武器、ミクルベルティエを、リズムは白いステイック型の武器、ファンタスティックベルティエを、ビートはラブギターロッジが変形した武器、ソウルロッジを召喚する。

そして、それぞれの必殺技を同時に放つ

ピーチ「皆で決めるよ。届け！愛のメロディー・プリキュア・ラブサンシャイン・フレッシュ！」  
ベリー「響け！希望のリズム！プリキュア・エスパワールシャワー・フレッシュ！」

パイン「癒せ！祈りのハーモニー！プリキュア・ヒーリングプレア  
ー・フレッシュ！」

パッショń「吹き荒れよ！幸せの嵐！プリキュア・ハピネス・ハリ  
ケーン！」

メロディ・リズム「翔けめぐれ、トーンのリング！プリキュア・  
ミューージックロンド！」

ビート「翔けめぐれ、トーンのリング！プリキュア・ハートフルビ  
ートロック！」

ピーチ達の必殺技を同時発射しその途中で合成された光線が白いラ  
イダーの怪物に命中する

メロディ「決めるよ、三拍子…！」

リズム「2！」

ビート「3！」

メロディ・リズム・ビート「フィナーレ…！」

白いライダーの怪物の周りが爆発し、浄化の光によつて、怪物は元  
の仮面ライダーフォーゼの玩具に戻る。

怪物が消えたのか、ピーチ達は変身を解く

ラブ「ありがとうございます。貴方のおかげで助かりました」

響「ハミィ達を助けてくれて」

パイレーツ「気にしなくてもいいわ。プリキュアなら当たり前のこ  
とをしたのだから、それより貴方達に言いたいことがあるわ

ラブ「何ですか？」

パイレーツ「貴方達は近いうちに400年前に消えた悪夢と戦う事  
になる」

響「400年前の悪夢？」

バイレーツ「今はまだ現れないが、時がたてば現れるわ。言いたいことはそれだけよ」

そういうとバイレーツはラブ達とは反対方向へ立ち去りはじめるが

ラブ「あの～、バイレーツまた会えるの？」

バイレーツ「会えるわ。その時は他のプリキュアと一緒になる時に  
出会いうわ」

そういうつてバイレーツは去つた。そしてこれからの方針を話す。

タルト「これであの化け物は去つたわ。早い所、ここから去ります  
わ。シフォンはんもおびえておるし」

ハミィ「そうニヤ。早くここから去るニヤ。怖いのは勘弁ニヤ」

奏「そうね、ほかの皆も心配しているし」

せつな「何か嫌な予感がする。急いで集合場所の広場へ行きましょ

そして、ラブ達と響達は集合場所である博物館前の広場へ向かうの  
であった。

## **戦闘後編 フレッシュ&スイート編（後書き）**

次回、集合場所に近いGOGO組とS組の背後に豪快な巨人も  
どきの怪物が・・・

## 予兆 5 まこととお&S S編（前書き）

戦闘開始の前触れ。のぞみ達と咲達編です。

商店街にてラブ達と響達はフォーゼもどきの怪物を倒した。  
その頃集合場所である広場に近い5GOGO組とS組はといづ  
と、広場へ行く途上で会話をしていた。話題はスター・オーシャン//  
コージアムのこと話をしていた。

のぞみ「本当にすゞかつたよ。スター・オーシャン//コージアムの展  
示物は」

うらり「そうですね。古今東西のいろんな物が取り揃えてて、いず  
れも見る価値がありました」

舞「私は宇宙の物がよかつたわ。//コージアムのプラネタリウムも  
よかつたし、ここでスケッチしたら迷惑掛けるよ。あたしは動物かな。

咲「舞、ここでスケッチしたら迷惑掛けるよ。あたしは動物かな。  
とくにライオンのは迫力があつてよかつた」

りん「あたしは宝石かな。どれもきれいだつたし。今度のアクセサ  
リー作りの参考にしようかな」

こまち「私は古代の書物よ。昔の人はどうな物語を書いていたのか  
気になつてたから」

かれん「私は医療よ。医療の歴史を見て思つたの。昔の人はこうい  
う風に治していつたんだと」

のぞみ「そうか、じゃあ私は・・・」

くるみ「待ちなさい！」

のぞみが言おうとする所をくるみが突っ込みをいれた

くるみ「あなたの場合は土産コーナーのお菓子が気になるんでしょ  
のぞみ「ぎくつー! だつて土産コーナーのお菓子はおいしそうだった  
んで・・・」

くるみ「まったく、食意地張つちやつて。まあ、『デザート王国』でも同じことってたんだし」

のぞみ「でも、その時のくるみだつてお菓子の『』と『』になつてたでしょ」

くるみ「うつーまあ、否定は出来ないわね」

のぞみとくるみの会話を聞いて咲と舞が話に入つてきた

咲「『デザート王国』？ 一体何の事？」

のぞみ「咲ちゃん、何か気になるの」

咲「まあ、何か美味しそうな国じやないかと」

のぞみ「そうだよ。『』はお菓子が美味しい王国なの。ただ、ちょっと私には嫌な思い出があるの」

咲「嫌な思い出？」

くるみ「まつて、咲。『』は私が言つわ。『』へきた時ののぞみはちょっと嫌な事があつたの」

舞「それは一体」

くるみ「それは、『』様がムシバーンといつ男に洗脳されて敵になつていたの」

咲「洗脳！？」

くるみ「そして、のぞみは『』様を戦う羽田になつてしまつた。その時ののぞみは苦戦を強いられてきたけど、のぞみの説得のおかげで正気に戻れたの。そういう意味ではのぞみが羨ましかつたわ」

舞「それで、よくいがみ合つてしまふのはこれが原因かしら？」

くるみ「うつ、それに近いわ。後、ムシバーンの戦いでのぞみはシヤイニングドリームになつて戦いを繰り広げたわ。そして、戦いが終わつた後はムシバーンは満足な心を持つて消えて言つたわ。でも、ブラックホールでの戦いでまた現れてしまつたわ。その時ののぞみはつらかつたわ。あんな形で敵になつてしまつた事を」

舞「そうだったんですね。のぞみさんにもつらい思い出があるとは

思いませんでしたわ

のぞみ「舞ちゃん、実はそれだけじゃないの」

舞「どういう意味なんですか？」

のぞみ「私には、りんちゃんやつらが、しまむらさんやかれんさん、くるみ、なぎさん達以外にも友達がいたの」

咲「それは誰なの？」

のぞみ「その友達の名前はダークドリーム。シャドウが作り出した私の「ロボー」なの。もちろん、彼女とは戦ったよ。そして和解して一緒に出ようとしてたけど、シャドウの攻撃から私を守るために身代わりになつて散つてしまつたの。もし生きてくれたら友達になれたのに・・・」

舞「のぞみさん・・・」

のぞみ「じめん、明るい話のはずが暗い話になつてしまつて」

舞「いいんです。わたしものぞみさんが「いつこいつ」というがつたことに驚きましたから」

咲「あたしもよ」

咲達の会話を聞いていたシロップ

シロー「驚いたな。俺の出来つ前ののれみは「いつこいつ」とあつて

いたとはな」

小々田「それもそうだろう。時には喧嘩だつてした事があつたし、いろんな事があつたんだ」

夏「まあ、そのおかげでいろんな事を学んだからな。けど残念だな」

小々田「何が残念なんだ？」

夏「大航海時代の展示コーナーで海賊船の模型が消える騒ぎが起きたんだ。」「ココ、俺が世界の文化を勉強をしていた事を知つているだ

ろ」

小々田「ああ、そつだつたな。その時はナツツは王の事で悩んでいたな」

夏「そうだ。だが、その出来事が会つたからこそ、俺は王の力を使えるようになつていつたからな。ん、どうしたシロップ？」

シロー「何か、警官達が集まつてゐるぞ」

よくみるとシローの視線の先には警官が集まつていた。

小々田「すいません。何があつたんですか？」

警官A「何か、パトカーが一台消えたんだ」

夏「パトカーが消えた？」

警官A「はい、そうです。他にもフォーミュラーカーとレースカー、ジェット戦闘機と潜水艦、トレーラーが突如消えたんです」

そしてちよづどのぞみ達も警官の所へ來た。

のぞみ「ココ、どうしたの？」

小々田「何かパトカーが消えたという話を聞いたんだ」

小々田が話をしようとしているところを別の警官が來た

警官B「大変です！」

警官A「どうした？」

警官B「博物館にて海賊船の模型が消えました。他にもドラゴンの模型とライオンの模型、ティラノザウルスの模型と侍人形と忍者装束が消えました」

警官の話を聞いて呆けるのぞみ達

のぞみ「海賊船に」

りん「ジェットとトレーラー？」

うらら「レースカーに潜水艦？」

こまち「デラゴンとライオン?」

かれん「侍と忍者?」

くるみ「パトカーにフォーミュラーカー?」

咲「後、ティラノザウルス?」

舞「何か嫌な予感がするわね」

舞がそうこうと、突如地響きが起きた

かれん「地震?」

うらり「何が起きたんですか?」

地響きを聞いた途端、警官達は逃げていった。

警官A「何だ、あのデカブツは」

警官B「逃げる!」

咲「どうしたんだる?」

舞「急に逃げるなんて?」

そういうと、突然、のぞみのいる地点が暗くなつてきた

こまち「何か、暗いわね。どうかしたのかしら。あらつ、りんさん  
顔色悪いわよ」

りん「後ろみてよ、監」

くるみ「後ろ?」

のぞみ「何があるの?」

後ろを振り向くと、脚が潜水艦とトレーラー、腕がジェットトレーナー、そして胴体が海賊船の巨人がいた!

のぞみ「うわっ！－なんじやこつやああああああ－－－」

小々田「何か出た！」

夏「一体何なんだ！？」

そう、この巨人は海賊の戦士がのる巨大兵器を模した怪人だった

りん「これって、「ゴーカイ・・・」

うらら「りんさん。この作品には「ゴーカイジャー」は出ませんよ」

こまち「まさか、これって」

かれん「さっきの警官達が話していた消えた乗り物が合体した物よ

くるみ「でかすぎよ」

咲「あんなのが暴れたら大変な事になるよ」

舞「このままでは、関係ない人が巻き込まれるわ」

そして咲と舞の携帯から声がした。

？？？「その通りラピ」

？？？「はやく止めるチヨペ」

咲「フラッピ、感じたの」

舞「チヨッピもなの？」

声の主はフラッピとチヨッピ。この二人は泉の郷の精霊であり、幼い頃の咲と舞に会ったことがあるのだ。

フラッピ「そうラピ」

チヨッピ「ほつといたらまずいラピ」

咲「そうだね」

舞「何とか止めないと」

そういうと咲と舞は携帯電話、クリスタルコミュニケーンを手にして、

手を繋いで変身コードを言ひ。

咲・舞「「デュアル・スピリチュアル・パワー！」」

のぞみ「私達も行くよー。」

りん・ひらり・じまち・かれん・くるみ「「「「「「「「」」」」」

「

そういうとのぞみ、りん、うらら、じまち、かれんは携帯電話に似たアイテム、キュアモのキーボタンを押し、変身コードを言ひ  
のぞみ・りん・ひらり・じまち・かれん「「「「「プリキュア・メタモルフォーゼ！」」「」「」「

くるみはパレットに似たアイテム、ミルキィパレットに筆を触れさせ、変身コードを言ひ

くるみ「スカイローズ・トランスレイト！」

そういうとのぞみ達と咲達は光に包まれ、衣装や髪型が変化する。

のぞみは蝶と薔薇の意匠を入れたピンクの衣装を纏い、髪は腰まで届くほどロングヘアになりツーサイドテールがリング状に変化し薔薇の髪飾りが装着する、りんは蝶と薔薇の意匠を入れた赤の衣装を纏い、髪は前髪が生えた赤いショートヘアに変化し、うららは蝶と薔薇の意匠を入れた黄色の衣装を纏い、髪は猫の耳の様なシニヨン風の髪に、先端は細いカールした髪になり根元には薔薇の髪飾りがつける、じまちは蝶と薔薇の意匠を入れた緑の衣装を纏い、髪は増量したショートボブに一つに分かれて長くなつた襟足に蝶と薔薇

の意匠を入れた力チユーシャを着けて、かれんは蝶と薔薇の意匠を入れた青の衣装を纏い、髪は長いボニー・テールに変化し。ボニー・テールの根元には蝶と薔薇の髪飾りが装着する、そしてのぞみ達の胸には蝶を模したブローチが装着する。くるみは白と紫の衣装を纏い、ウェーブのかかったツーサイドテールに青い薔薇の髪飾りを装着し、胸元には青い薔薇が装飾される。

光に包まれた咲と舞は

咲「花開け大地に！」

舞「羽ばたけ空に！」

との掛け声と同時に咲は赤紫色の衣装を纏い、髪はショートのボニー・テールに変化し、舞は銀白色の衣装を纏い、髪は紫のボニー・テールに変化する。そして、咲と舞の腰にクリスタルコミコーンが装着される

そして、華麗なる衣装を纏つたのぞみ達と咲達は地上に降り立ち、名乗り口上を言つ

のぞみ「大いなる希望の力！キュアドリーム！」

りん「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

うらら「弾けるレモンの香り！キュアレモネード！」

こまち「安らぎの緑の大地・・・キュアミント！」

かれん「知性の青き泉！キュアアクア！」

くるみ「青いバラは秘密のしるし・・・ミルキィローズ！」

咲「輝く金の花！キュアブルーム！」

舞「煌めく銀の翼！キュアイーグレット！」

ドリーム・ルージュ・レモネード・ミント・アクア・ローズ・・・

・・・希望の力と未来の光、華麗に羽ばたく5つの心、Y e s !

プリキュア5！」「」「」「

ブルーム・イーグレット」「ふたりはプリキュア！スプラッシュシュスター！」

ブルーム「聖なる泉を汚す者よ！」

イーグレット「アコギな真似はお止めなさい！」

今ここに邪悪なる者に立ち向かう可愛らしく強き戦士達、プリキュア5と二人はプリキュア、スプラッシュスターが登場した。彼女達は巨大な豪快な怪物を倒すことが出来るのか？

この戦場の外では、藍色の髪の美女がプリキュア達の様子を見ていた。

？？？「これがこの世界のプリキュアか、ヤイバの世界や上原大人の世界、皇リイナの世界やジュエルマスターの世界とは違って、どんな力を持つのだろうか」

そして、彼女の胸元にはペンダントのような物をかけていた。そして、このペンダントは今いるプリキュアの前で輝いていた。

彼女と出会ったのは先の話である。

予兆 5 80 80&S S編（後書き）

なぎさ「何だか知らないけどイライラする  
メッブル「何でメポ？」

なぎさ「あなたの声が聞こえそつでしょ！」  
ほのか「たしかに海賊戦隊ゴーカイジャーのナレーションがメッブルの人とはいえる」  
ひかり「過敏すぎます」

次回プリキュア対豪快な怪物戦開始

## 戦闘前編 5go&amp;S組編（前書き）

戦闘開始、しかし、今回は街中で暴れるところまで広い所へ行きます。戦闘開始は次回になります。

豪快な巨人に対峙する5 go goとS組。豪快な巨人のでかさに驚いていた。

ブルーム「で、でかい・・・」

イーグレット「あの巨人が私達の敵になるなんて・・・」

ルージュ「あのデカブツ、レモネードの誘いで大都会へ行つたときに遭遇したバルーンホシイナー以来だ」

アクア「もしくは私の高原の別荘に現れた山ホシイナーよ」  
ミント「信じられないわ。海賊の戦士が乗る巨人が私達を攻撃するなんて」

レモネード「それはありません。この巨人は人々を守るために戦うヒーローが乗る物です。悪いことに使う訳がありません！」

ドリーム「じゃあ、何が起きたの？」

驚くドリーム達を尻目に豪快な巨人擬きは手の砲口にエネルギーを溜め

ローズ「みんな、呆けないで！来るわ！」

ビームを発射する。そして、その光線はドリーム達を襲う。

ドリーム「うわっ！」

ブルーム「激しそぎるよ」

ルージュ「当たつたら一たまりもないよ」

光線の脅威に晒されるドリーム達

ミント「それより、ここで戦つたら関係のない人が巻き込まれるわ」

イーグレット「そうね。ここで戦うのは得策じゃないよ」

アクア「それに、ここではココ達も攻撃に晒されるわ」

ローズ「確かに。流れ弾で街の被害を増やすわけには行かないわね」

光線の砲撃に悩ませる中、空から、声がした

????「ドリーム！」

レモネード「その声、シロップですか？」

ドリーム達の前に現れたのは橙色の燕、それがシロップの本来の姿の一つである。シロップは普段はペンギンに似た姿だが、大きな燕の姿の時はドリーム達を乗せる移動手段として使われるのだ。

シロップ「そうだロブ」

ローズ「シロップは無事ね。ココ様とナッシ様は」

????「大丈夫ココ」

????「こっちも無事ナッシ」

シロップの背中の席にはココとナッシがいた。姿は本来の姿であるスピッツ犬とリストに似た姿になっている。

ドリーム「よかつた。無事だつたんだね」

ミント「ナッシさん。怪我をしないで済んで」

安心するドリームとミント。そしてココ達はある提案を囁く

「ココ、ここに戦うのは駄目ココ。広いところへ行くココ」

ドリーム「広いところってどこなの？」

ココ「広場より少し北に星海海岸がある」。そこへ誘つ

ミント「でも、ここは人がいるところだけど大丈夫？」

ナツツ「大丈夫ナツ。この時期は人がいないから大丈夫ナツ」

ローズ「そうね、人がいないなら安心ね。みんな、一度、ここへ離脱して、海岸へ誘い込むのよ」

ローズの号令でシロップに乗り込むドリーム達。S S組は自力で何とかしようとするが

ブルーム「あたし達は自力で飛べる形態があるから大丈夫だけど」  
イーグレット「駄目よブルーム。距離があるから。ここはシロップに乗りましょ」

やや距離があるという理由でブルーム達も乗り込んじた。

シロップ「全力で飛ぶロープ」

ドリーム達を乗せたシロップは豪快な巨人擬きの手から一時逃げることにした。目的は海岸へ誘い込む為である。シロップの様子を見た巨人擬きは、突如、巨人にある扉を全てあけた。胴には竜の首、手は竜の翼、足には竜の爪が出現した。そして、巨人擬きもまた飛行を開始した。

シロップに乗つて逃走しているドリーム達

ルージュ「とりあえず逃げてはいるんですけど、一体どこへ向かっているんですか？」

アクア「星海海岸と言つ所よ。夏場は人がにぎわつてゐるけど、今  
の時期は人がいないのよ」

ルージュ「そうなんですか、もし夏場に訪れるのでしたら水着持つ  
てこようかなつて」

アクア「水着ね、それも悪くないわね」

ルージュとアクアの話をしている中でブルーム達は海岸の事の出来  
事を思い出していた。

ブルーム「話聞いてみると夕凪海岸を思い出しそうナリ」「  
イーグレット「そうね、海岸にはいろんな事がありますから  
ブルーム「そうなのよ、何かフラッピとチヨッピが海へ遭難したと  
か、ハナミズスターのが海の家の女主人をやつていたり、後、満さん  
と薰さんが海岸で死闘を繰り広げたとか色々あつたね」

ブルーム達が話をしている所をローズが声を掛ける

ローズ「はいはい、話するのもいいけど、本来の目的を忘れちゃ困  
るわよ」

ブルーム「あつ、 そうだね。でも、都合よく来るのかな」

ブルームがぼやく頃、後ろにいるレモネード達は驚いていた。

レモネード「皆さん、後ろを見てください」

ドリー「後ろ?」

ミント「何かいるのかしら?」

レモネードの視線には竜と融合した巨人擬きが追跡してきた。

ミント「やつぱり、追ってきたみたいね」

ドリーム「でも、どうやって竜をいたの？」

レモネード「最初に現れた時は海賊船とジョットとトレーラーとレスカーと潜水艦しかありませんでしたが」

ミント「博物館の中にあった竜の剥製を入れたのよ」  
ドリーム「なるほど。つい何か竜の口から何か吐き出していくよ」

ドリームの言つとおり竜の口から、火球を吐いた。しかし

ミント「この攻撃はシロップ狙いね。けど」

そういうとミントは両手を交差し、周りにミントの風を吹いた後、上げた手から縁の円盤を召喚した

ミント「プリキュア・エメラルドソーサー！」

そして、そのソーサーを盾にして火球を防いだ。

ミント「私がいる限り、シロップには当たさせないわ」

その後も巨人擬きの攻撃を防ぎまくるミント。その中、竜の火球は見当違ひの方向へ撃つた

ドリーム「あれ？これってノーコンなの」

レモネード「わざと外したのでしょうか？」

巨人擬きの行動にかしげるドリームとレモネード。しかし、ルージュとアクアだけは違っていた。

ルージュ「この攻撃、何かありますね」

アクア「ええ、何か目的があるようね」

そして、ローズは上空を見ていた。すると上から何かが来る物に気づいた。

ローズ「気をつけて、上から何か来るわ」

ドリーム「上って、ああ！？」

レモネード「上空から狙つてきました」

何と上に打ち上げてから攻撃してきたのだ。

ミント「しまった、上から攻撃するなんて。でも、ここを外したら、直接攻撃されるわ」

不安を抱くミント。しかし

ブルーム「大丈夫だよミント」

イーグレット「こつちは私達が何とかするわ」

そういうと二人の手に光が集まり、何とバリアを張つてきたのだ。  
そして、打ち上げた火球を防いだ。

ミント「バリア？ ブルームとイーグレットもできるの？」

ブルーム「あたし達は精霊の力を借りる事によつてバリアを作り出せるの」

イーグレット「それだけじゃないの。他にも、飛行能力を得たり飛び道具が使えるの。だから、周りは私達がフォローします。ミントは巨人擬きの方向の攻撃を防ぐ事に集中してください」

ミント「解つたわ、二人共お願ひね」

ブルーム「任せなさい」

ブルームとイーグレットのバリアを借りる事によつて、火球攻撃を防ぐ事に成功したドリーム達。そして数分後

「「「みえた」「」」

ナツツ「星海海岸の上空まで来たナツ」

シロップ「もう、逃亡する必要はないロップ」

ついに星海海岸上空へ着いたドリーム達

ドリーム「よしつ、こつから反撃よ！みんな行くよ！」

ルージュ・レモネード・ミント・アクア・ローズ・ブルーム・イーグレット

「「「「「Y es!」」」」」

ドリーム「つてあれ！？なんでさりげなくブルームとイーグレットも言つてるの？」

ブルーム「一度言つてみたかったのドリーム」

ドリーム「はあ・・・、そんな事より、攻撃をしないと」

ミント「ドリーム、こゝは私が先に仕掛けるわ」

そういうと、盾として使われた円盤を巨人擬きへ投げつけた。

ミント「狙うは龍の翼よ」

そう、翼を斬りつけることによつて巨人擬きを地面に落としてダメージを与える作戦である。そして命中するが、今度は巨人擬きから竜を出し

ローズ「カウンター、まさか・・・」

何とカウンターでシロップにあて、プリキュア諸共地面に落とされ

てしめい

卷之三

アーニーは「うーん、まだ達かねえ」と嘆く

久松義徳

そういうトイーグレットは水色の羽衣を纏つた衣装のブリキュー、キュアウインディに変身する

ウインディ「風よ！」

そして、地面に突風を当て、地面にクッショングみたいな物を発生し、  
ローラ達を安全に地面に降ろした。

「助かった」

地面に無事に降りたロボ達を見て安心するドーム

ドリーム「ウインディ、ココ達を助けてくれてありがとう」

そして、無事に地面に降り立つドリーム達、一方の巨人擬きも地面に降りようとしていた。

ブルーム「そう簡単に地面に降りさせないよ」

そういうとブルームは黄緑の円を連想させる衣装のプリキュア、キュアブライトに変身し

ライト「光よ！」

黄緑の光を巨人擬きの膝にあて、脚を切り離した。これでダメージを与えるかに見えたが、巨人擬きは脚にフォーミュラーカーを接続し、地面にホバリングしながら降りてきた。

ルージュ「こらー！車が飛ぶなああああ！」

レモネード「ここは蟹ではないのでしょうか？」

ローズ「レモネード、電王はこの作品には出ないわよ。それにこの形態は何かやばい予感がするわ」

ミント「ひょっとして、完全形態が出たりして」

アクア「ミント、そういうの言わないで。本当に出かねないから」

海岸を舞台に変え、今度は下半身をフォーミュラーカに変えた豪快な巨人擬きがプリキュア達の前に立ちはだかる。果たしてどうなる？

**戦闘前編 5 go go & amp; S 組編（後書き）**

次回、豪快な巨人擬き、大暴れ。カンゼンも来るのか？しかし！

湊「次回、私が助つ人に登場よ！」

**戦闘中編 5 go go & amp; S 組編（前書き）**

豪快な巨人擬き、やりたい放題。でも、最後にこの人登場

下半身をフォーミュラーカーに換装した豪快な巨人擬き、その巨人擬きに挑むブライトとドリーム達。

「ブライト、下半身を車に換えるなんて、ただ乗せただけでは……」「ワインディ、ブライト、それは言つてはいけないよ」

一人の会話を聞き、「ノルマーンの中にいるフラッシュとチョップはブライト達に言葉を言いつ

「フラッシュ、ブライト、ぐるり」と  
「チョップ、『氣をつけろ』」

ゴーイン擬きの突進がブライトたちを襲いつ。

「ブライト、うわっ！」  
「ワインディ、早い！」

ゴーイン擬きのスピードに翻弄されるブライト達。しかし、アクアは冷静に見ていた。

「アクア、確かに早いけど、このスピードは平地だからこそ發揮できるのよ」  
「ミント、じゃあ、どうするの？」  
「ローズ、決まっているわ。要するに走りづらくすればいいのよ。ここをでこぼこ道にすればスピードは落ちるわ」  
「ミント、それはいいけど、どうやってここをでこぼこ道にするの？」  
「ローズ、ミント、ここは私任せなさー」

アクリア「ローズ、貴方、何か手があるの？」  
ローズ「勿論、あるわ。見ていいなさい」

そういうとローズはゴーオン擬きが走る道の前に立つた

ローズ「暴走車はここで止まりなさい！」

そういうとローズは拳を地面を叩くと、小規模のクレーターが出来た。クレーターに突っ込んだゴーオン擬きは縦回転しながら宙に浮いてしまった。

ブライト「出た、ローズ必殺のクレーターパンチ・・・」  
ウインディ「相変わらず強烈ね」

クレーターパンチの威力に驚くブライトとウインディ

ローズ「今よドリーム！」

そう言つとドリームはゴーオン擬きの所へ走り、両手をクロスし、手にピンクの光を纏う。

ドリーム「プリキュア！シューティングスター！」

そして、一度、後方へ飛んだ後、両手をクロスし、ピンクの光を纏いながら、ゴーオン擬きへ突進した。そして、ゴーオン擬きをバラバラにした。しかし・・・

レモネード「バラバラになつたのはフォーミュラーカーだけですね」  
バラバラになつたのは六つのパーティに分けられたフォーミュラーカ

一だった。そして、離脱した巨人擬きの下半身には赤いライオンが出現した。そして、そのライオンの爪が空中で無防備になっているドリームを襲う。

ルージュ「ドリーム、気をつけ!」

ドリーム「えつ?」

ライオンの爪がドリームの背中を襲い

ドリーム「キャアアアアアアア!」

地面に叩きつけられてしまう。ドリームの背中には、衣装とインナーを切り裂いて出来た傷が出来ていた。ルージュは負傷したドリームに近づく。

ルージュ「ドリーム、大丈夫?」

ドリーム「大丈夫だよルージュ」

ルージュ「無理しないで! あんたの傷、相当酷いから」

ドリーム「解っているよ。でも動きに支障ないから」

そういうと、ドリームはガオゴーカイオー擬きになつた巨人擬きに対峙する。しかし、背中に血を流しているドリームを見たローズは

ローズ「ドリーム、無理しないでよ・・・」

そして、ドリームの様子を見て、不安を抱いたルージュは他の皆に声をかけた

ルージュ「ドリームを無理するわけには行かない。皆、ドリームのフォローに入つてあげて」

ミント「解ったわ」

ルージュの呼びかけでドリームを援護しようとするが、レモネードは巨人擬きの妙な様子に気づいていた。

レモネード「ルージュ、まってください！巨人擬きが何かします！」

レモネードの言つ通り、巨人擬きの胸は全開に開き、中から、パートナーと縁の忍者が飛び出した

ルージュ「何あれ！？なんでパートナーと忍者が出るの？」

アクア「成程、この中にパートナーや忍者、竜を仕込んでいた訳ね」

驚くルージュの前にパートナーが突っ込んでくる。

アクア「ルージュ、避けなさい！」

アクアの言葉を聞き、パートナーの突進を避けるルージュ

ルージュ「あのパートナー、何て乱暴かしら？」

アクア「こんな運転、間違いなく免許停止確定よ。あんな車、早く振り切つてドリーム達の所へ行かないと」

しかし、パートナーのスピンをしながらの射撃の前にルージュとアクアは足止めされてしまう。

ルージュ「くつーこれではドリーム達の所へ行けれない」

苦戦するルージュとアクアを救うため、レモネードが援護へ行くが

ミント「レモネード、上に敵が」  
レモネード「敵？」

上空から縁の忍者が襲い掛かる。しかし、レモネードは間一髪避け  
る事に成功する。

レモネード「危なかつた」

ミント「あの忍者、私達を足止めするつもりね」

レモネードとミントの前に忍者が立ち塞がる

レモネード「ですが、一人なら何とかなります」

ミント「やつね、協力して行きましょ」

しかし、レモネードとミントの疑惑とは裏腹に忍者は何と分身した。

レモネード「分身？ そんなのありますか？」

ミント「多すぎるわ。でも、何とかしないと」

レモネードとミントは大量の忍者によって足止めしてしまう。

ブライト「ルージュたちが足止めされても」

ウインディイ「こうなつたら、私達がドリームの元へ行かないと」

足止めされてしまったルージュたちを見たブライト達は急ぎドリー  
ムの所へ向かう。しかし、その行動は突如、地面から現れたドリル  
付きのティラノザウルスによつて邪魔されてしまつ。

ブライト「何でこんな時に恐竜が出てくるのよ」

「ワインディー」「あの恐竜、私達を足止めするつもりなのー!?

そして、恐竜の口から光線を放ち、ブライイトとワインディーを襲う。

「ブライイト」「ちょっと何あの光線は」

「ワインディー」「当たつたら、ひとたまりもないわ」

恐竜の襲撃によって足止めされたS組。それぞれのメンバーがパトカー、忍者、恐竜によって足止めされてしまつ。そして、ガオ擬きに対峙するドリームとローズは

ローズ「まずいわね。皆、足止めされてるわ。脚が四足ではクレーターパンチは効果が薄いし、ドリームは怪我をしている、どうすればいいの」

ガオ擬きは容赦なくドリーム達を襲う。必至に避けるがドリームは怪我の影響で動きが鈍い。

ドリーム「早い。やつぱり無理は出来ないか。皆には心配したくないのに・・・」

動けないドリームにライオンの爪が襲おうとする。

ローズ「ドリーム、避けなさい!」

ドリーム「わかってる、つづわッ!」

背中の激痛で鈍つてしまつドリーム。そこをライオンが襲う。もし

当たれば致命傷になつてしまつその時

「? ? ?」「プリキュア・ストライクスピア!」

光の槍がドリームを襲おうとしたライオンの額に命中し、ガオ擬きは後退した。

ドリーム「今の攻撃は一体?」

ドリームは光の槍を投げた人に視線を向けた

ドリーム「あの人は一体?」

ドリームを助けたのは赤い衣装を纏い、赤い長髪をした眼帯の少女だった。その少女を見て、敵が及ばないところに居たココは驚いていた。

ココ「君は一体、何者ココか?」

ココの質問に答える少女

? ? ? 「安心しなさい、私は味方よ」

少女の返答を聞いて、今度はナツツが少女に質問を言つてきた。

ナツツ「どうして、ドリーム達を助けたナツか?」

ナツツの質問に答える少女

? ? ? 「貴方達を守りたいからよ」

ドリームを救つた少女に視線を向けるドリーム達、するとブライアントが少女に声をかけた。

「あなたは一体、何者なの？」

そういうと少女はブライトの質問に答えた

「教えてあげるわ。私の名は」

「変革をもたらす自由の海賊！キュアバイレーツ！」

ドリーム「キュア・・・」

ローズ「バイレーツ？」

ドリームを救つたのはキュアバイレーツと言つプリキューだった。  
彼女の参戦によりドリーム達は反撃に移りつつとしていた。

パイレーツ「次回、カンゼンゴーカイオー 擬き、出現よ。でも、貴方達には素敵な出会いをもたらすわ」

ドリーム「どうこいつ意味なの？」

パイレーツ「次回のお楽しみよ。ヒントは貴方の知っている友達よ」

もっとも長い話かもしれない。詰め込みすぎたか・・・  
カンゼンは次回になります

豪快な巨人擬きの攻撃にさらされている上に、巨人擬きの胸から現れた忍者とパトカー、さらに地中から現れたドリル付きの恐竜によって足止めされたプリキュア達を救つたのは赤い衣装を纏つた海賊の戦士、キュアパイレーツだった。

ブライト「あんた、あたし達を助けに来たの？」

ブライトの質問に答えるパイレーツ

パイレーツ「そうよ。だから今から、貴方達を助けるわ」

パイレーツの言葉を聞いて、質問を言おうとする

「」「相手は恐竜と忍者とパトカーと豪快な巨人擬きだ」「。どうやつて戦つ」「か？」

するとパイレーツは携帯電話と鍵に似た物を出して、鍵を電話に指した。

パイレーツ「これを使うわ。プリキュアチエンジ！」

電子音「キューアエクス！」

パイレーツは交差した翼を持ち、右手に剣を持つた紫のプリキュア、キュアエクスに変身した。そして

「エクス「行くわよ。トランスマードー」

そしてエクスの体は赤く光り、右手のエクスソードを展開し、恐竜と戦っているブライトの所へ向かつた。

その頃のブライトは光線とドリル付きの尻尾に悩まされていた。

ブライト「あの光線、きついナリ」

ワインディ「かと言って、近寄ればドリル付きの尻尾が襲つてくるわ。どうすれば・・・」

不安を抱くブライト達の前に、赤く光ったプリキュアが横切つた。

Ｐエクス「ここは私に任せなさい」

ブライト「あんたは一体？」

Ｐエクス「貴方達の味方よ」

ワインディ「味方？」

Ｐエクス「そうよ、貴方達、今から私の戦いを見なさい」

そういうとエクスは両手にピンク色の光を放つ剣を出し、恐竜擬きを斬りつける。

Ｐエクス「プリキュア！エクスサー・ベル・ハリケーンスラッシュユー！」

神速の如く、恐竜擬きを切り刻むエクス。さらに

Ｐエクス「喰らいなさい！プリキュア・エクスダガー・スピア！」

一本の短剣が、恐竜の両目に命中し、視界を塞いだ。視界を塞いだ事によつて混乱する恐竜擬き。さらに、ライフルモードに変形したエクスソードを恐竜擬きの腹に突き刺し、弾丸を内部へ撃ち込んだ。

PHクス「プリキュア！エクスソード・フルブラスト！」

恐竜擬きは腹のダメージを受けて、倒れた。そして、再び剣形態に変形したエクスソードで敵を切り裂こうとした。

PHクス「止めよー！プリキュアー！エクスソード・スラッシュ！」

エクスソードの一撃で倒れる恐竜擬き。しかし、恐竜擬きは倒れていた。

PHクス「後は貴方達が止めを刺して。私では破壊されるか？」  
パイレーツの言葉を聞いたブライトとワインディーは手を繋ぎ、必殺技の体制に入った

ワインディー「精靈の光よ、命の輝きよー」  
ブライト「希望へ導け、2つの心！」

そして、二人の手に精靈の光が集まり、その光を両手で押し出して発射する

S S組「「プリキュア・スペイラル・スター・スラッシュ！」」

その光は恐竜擬きに包まれ、消滅する。

PHクス「今のうちよー早くドームの元へ行きなさいー。」「

ブライト「あんたはどうするの？」

PHクス「他の皆を助けに行くわ」

そういうとPHクスは今度は忍者擬きの所へ向かった。その忍者擬き

の所で苦戦しているレモネードとミントは、

レモネード「数が多くあります。レモネード・フラッシュもつかつても  
きりがありません！」

ミント「ナイトメアの戦いに使つた技は、今はローズパクトの力の  
おかげで威力が上がつていてるけど、それでもきついわ」

苦戦しているヒクスをエクスがやつてくる

エクス「心配しないで、ここは私が何とかするわ」  
レモネード「貴方は一体誰なんでしょう？」

ミント「私の味方なの？」

エクス「安心して、私は味方よ（しかし、数が多いな）」

そういうとエクスは黄色のプリキュアキーを出してきた

エクス「忍者にはこれよ。プリキュアチョンジ！  
電子音「キュ~アボルト！」

今度は黄色の雷のプリキュア、キュアボルトに変身した。ボルトの手には雷を纏つた十字手裏剣を持っていた。

ボルト「斬り裂け！プリキュア・ライトニングクロス！」

十字手裏剣を投げつけ、忍者共をまとめて倒すが、忍者はさらに分身する。

ボルト「分身するとは小ぢかしいわね。ならば」

そういうとボルトは分身で対抗し、全方向から電撃を放つた。

Pボルト「まとめて消し去つてやるわ。プリキュア・ライジングサンダー！」

全方向からの電撃によつて大量の忍者はほとんど消し去つた。そして、残つた忍者はといつと

レモネード「プリキュア・プリズムチーンー！」

光の鎧によつてまとめて捕まえた。

Pボルト「鎧だけで敵を捕獲するとはやるよつね」

レモネード「ありがとう」やれこます。貴方もやりますね。ミント、止めをお願いします」

ミント「解つたわ！」

そして、ミントの手には緑の円盤が形成され、敵に投げつけた

ミント「プリキュア・ヒメラルドソーサーー！」

その円盤によつて、忍者は両断され、忍者は消滅した。

レモネード「助かりました！」

ミント「ありがとう、助けてくれて」

Pボルト「気にしなくていいわ。それより、早くドリームの所へ行きなさい」

レモネード「解りました」

ミント「無理しないでください」

そういうとボルトは今度はパートナーに苦戦しているルージュとアク

アの元へ向かつた。その頃のルージュとアクアはと言つと

ルージュ「ゴーイン擬きには劣るが厄介ですね」

アクア「そうね。車輪から撃つ弾丸は厄介ね。少しづつ削られるのは痛いわ」

弾丸攻撃によりルージュとアクアの機動力は少しづつ削られていた。特にアクアは脚が露出しているせいで傷が目立つっていた。

アクア「いくらプリキュアの力があるとは言え、当たり続けると痛いわ」

ルージュ「しかし、パトカーはしつこいみたいですね。何とかならないのかな」

ルージュがぼやくとボルトがルージュ達の前に現れた

Pボルト「下がりなさい。無理をすれば大変な事になるよ」

ルージュ「誰なのあんた?」

Pボルト「私は貴方達の味方よ」

アクア「味方?じゃあ、私達を助けるの?」

Pボルト「そうよ。だから、貴方達は一度下がつて回復に努めなさい。ここは私に任せなさい」

アクア「わかったわ」

ルージュとアクアを下げさせると、ボルトは赤色のプリキュアキーを取り出し、携帯電話に挿した

Pボルト「プリキュアチエンジ!」

電子音「キュー アウイニング」

今度は赤い装甲を纏い、ヘルメットを装備したプリキュア、キュアウイニングに変身した。

Pウイニング「警察車両にはそいつで勝負よ！」

そういうとウイニングの左手には銃型武器、ウイニングショットが、右手にはウイニングソードを装備し、パトカーに挑んだ。

パトカーはビームや銃弾でウイニングを襲うが、ウイニングには通用しなかった。傷が付いていないウイニングを見て驚くルージュとアクア。

ルージュ「あれだけの銃弾受けて、傷一つ付いていないなんで」  
アクア「あのプリキュアの防御力、相当高いよね」

銃弾を防いだウイニング。そしてウイニングはウイニングショットとウイニングソードを合体し大型銃にした。そして、腕のウイニングブレスに番号を入力し、発射準備に入った。

電子音「8・8・9」

Pウイニング「プリキュア・ウイニングバスター！」

ウイニングバスターから光線を放ち、パトカーを転倒させる。そしてウイニングはルージュとアクアに声をかける

Pウイニング「二人共、止めは貴方達に任せるわ。もう回復したでしょ」

ウイニングの声を聞いたルージュとアクア

ルージュ「アクア、立てますか？」

アクア「大丈夫よルージュ」

ルージュ「そうか、じゃあ、はやくあのパトカー黙らせて上げましょうか」

アクア「そうね、ドリームとローズの二人心配しているから」

そういう二人は両手を交差し、ルージュは炎、アクアは水を発生した

ルージュ「プリキュア・ファイアーストライク！」

アクア「プリキュア・サファイアロー！」

掛け声と同時に、ルージュは炎のボールを出し、サッカーボールの要領でけりだし、アクアは水で出来た弓矢を作り、水の矢を放った。そして、炎と水は合成され赤と青の光線になつてパトカーに当てる。そしてパトカーは消滅した。

Pウイング「二人共いいコンビネーションね。凄いわ」

ルージュ「照れるわね」

アクア「そう、ありがとう」

Pウイング「わかつたなら、早くドリームの所へ行きなさい。皆もそこへ行つてるわ」

ルージュ「そうね、はやくドリームの所へいきましょ。あんたもドリームの所へ行くんでしょ」

Pウイング「当然よ。私は先に行くから、あとで来なさい」

ルージュ「解つたわ。ドリームの方、頼むわよ」

ウイングはドリームの所へ向かった。そのドリームの所はガオゴーカイオー擬きに苦戦していた。

ローズ「ドリーム、あんた怪我しているでしょ。下がりなさい」

ドリーム「でも、ローズだけでライオン擬き倒せるの？」

ローズ「舐めないでよドリーム。私は赤い薔薇の力五人分の力があるのよ。それくらいの敵なんて大した事はないわよ。だから心配はしなくてもいいのよ」

ドリーム「ローズ（でも、ローズだって限界よ。私が怪我をしなければ眞に迷惑をかけずに済んだのに・・・）」

珍しく弱気になるドリームの前に、赤い装甲のプリキュアが現れる  
Pウイング「大丈夫よ。貴方は一人じゃないわ」  
ドリーム「貴方は？」

ドリームの質問を聞いたウイングは一度バイレーツに戻る

バイレーツ「私はキュアバイレーツ。貴方達の味方よ」

ドリーム「キュアバイレーツ・・・それじゃ、私達を助けてくれるの？」

バイレーツ「当然よ。ドリーム、ここからは私が手伝うわ。それに皆もここへ来るわ」

ローズ「じゃあ、皆も来るの」

バイレーツ「そうよ。だから、皆が来るまで持ちこたえましょ」

そう言うとバイレーツは携帯電話を出し、橙と紫のツートンのプリキュアキーを出した。

ドリーム「この鍵は一体何？」

バイレーツ「見てなさい。これが私の戦いよ。プリキュアチエンジ！」

電子音「キューアガニア！」

今度は右半身が橙で左半身が紫の衣装を纏い、橙と紫に分かれたボ

ブカットに橙と紫のオッドアイのプリキュア、キュアガイアに変身した。

ローズ「何!?」このプリキュアは

Pガイア「これはキュアガイア。別の世界に存在するプリキュアでこの世界には存在しないプリキュアよ」

ローズ「どういう意味なの?」

Pガイア「後で教えるわ。今はこの戦いに勝利しましょ」

ローズ「そうね」

ガオゴーカイオーナンセンに對峙するドリーム、ローズ、ガイア。しかし、ガイアは

Pガイア「先に攻撃を仕掛けるわ」

そういうとボウガン型の武器、ガイアボウガンを召喚し、上へ向けて矢を放つた

Pガイア「プリキュア・ガイアレイン!」

そして上から水を纏つた石の矢が大量に降ってきた。ガオナナセンに命中し、そしてドリームにも命中した

ローズ「どうしてドリームに当てるの?」

Pガイア「理由はあるわ。よく見なさい」

すると、ドリームの傷が治り、衣装の損傷も直してしまった。

ローズ「嘘! ドリームの傷が治った」

Pガイア「これはプリキュアに対しては回復効果を与えるの。ドリ

ーム戦える？」

ドリーム「うん、大丈夫だよ」

Pガイア「そう。なら大丈夫ね。さあ、行くわよ」

ドリーム、ローズ、ガイアはガオ擬きと交戦する。万全に回復したドリームによつて戦況は逆転する。

ドリーム「はあっ！」

ドリームの拳がライオンの頭にあてライオンは昏倒する。

ドリーム「今よ！バイレーツ！」

そしてガイアはガイアボウガンから水を纏つた岩槍を放つた。

Pガイア「プリキュア・ガイアチェイサー！」

岩槍があたり、ライオンはバラバラになつたかに見えた。しかし、バラバラになつたパーツはゴーカイオーナー擬きの中に入り、今度はシンケンゴーカイオーナー擬きと化した

ローズ「今度は侍。これ以上はまずいわ」

ドリーム「大丈夫だよローズ」

そう、遅れてきたルージュたちもドリームの元へ着いた。

ルージュ「ドリーム、ローズ遅くなつて御免」

ドリーム「皆、無事なんだね」

ルージュ「ああ、パイレーツのおかげよ」

Pガイア「皆、揃つたわね。行くわよ！」

ついに集結したプリキュア達。いよいよ豪快な巨人擬きの決戦が始まる。

次こそ、カンゼンゴーカイオー 擬き出現。しかし、夢の競演を見逃すな。

一言おひ。虎キチさんが喜ぶ五人組登場ですよ

なぜじやあ～～。何で長くなつた。でも、最後は間に合つた

## 戦闘後編その2 5go go&amp;S組編

劣勢だったドリーム達だが、パイレーツの活躍によって窮地を脱したドリーム達。今度はシンケンゴーカイオー擬きに戦いを挑む。

ドリーム「今度はシンケン擬きが相手だけど、今度は皆がいる。行くよ！」

プリキュア5・S S組「「「「「「「Yes!」」「」「」「」「」

ドリームの号令で氣合を入れるが

Pガイア「このYesは何か意味があるのか？」

レモネード「私達なりの氣合の入れ方なんです。プロッサムやメロディは決め台詞を言う事で氣合を入れるんです」

Pガイア「成程、なら私も、こんな格好だが、派手に行つてやるわ！」

シンケン擬きに戦いを挑むドリーム達。しかしあまりのでかさに苦戦する。

ルージュ「相手がでかいわね。どうしますか？」

アクア「こうこうのは関節部を狙いなさい。ここは無防備になりやすい所だから」

アクアの提案を聞いたドリーム達は間接部に集中攻撃を仕掛けた。さらにガイアの援護射撃によって、間接部の攻撃に成功するがシンケン擬きは薙刀で反撃する。

ローズ「薙刀とは厄介ね」

薙刀によつて離れたドリーム達、そしてシンケン擬きは獅子の口から火球を放つ。だが

ミント「同じ手は聞かないわ！プリキュア・エメラルドソーサー！」

火球をソーサーの盾で塞ぎまくるミント。しかし、今度は大型火球で攻撃した。

ローズ「これはまずいわね。この威力ではソーサーが持たないわ」

その時、ミントの所にブライトとワインディがフォローに入る。

ミント「ブライト、ワインディ！」

ブライト「あたしも手伝うよ！」

ワインディ「一人より三人よ！」

PGガイア「いいえ、四人よ」

そういうとガイアは携帯に赤い鍵を差し込んだ

PGガイア「プリキュアチエンジ！」

電子音『キュ~アフレイム』

今度は赤い衣装のプリキュア、キュアフレイムに変身した。

ミント「このプリキュアは？」

PGフレイム「これは別の世界にいる七人のプリキュアのリーダーよ」

そして、ブライトとワインディのバリアを張らせ、さらにフレイムは

PGフレイム「ウォルカーックシールド！」

炎の盾を張らせ、大型火球を薙刀に当てさせて、地面に落とした。それを見たレモネードは

レモネード「使わせてもらいます。プリキュア・プリズムチェーン！」

鎖を薙刀に絡ませ、それを鎖鎌見たく振り回し、敵を斬りつける。だが、シンケン擬きは今度は赤い刀で薙刀の持ち手を壊し、その勢いでレモネードを斬るうとしていた。しかし、ここでフレイムのフオローが入る。

Pフレイム「刀か。ならこれで行くわ」

今度は金色の鍵を差し込む

Pフレイム「プリキュアチエングー！」  
電子音『キュ～アシャイン！』

今度は金色のプリキュア。キュアシャインに変身する。

Pシャイン「ルナティックスラッシュ！」

シャインは月色の刀で赤い刀を弾かせる。弾かれてふらつくシンケン擬きの前に、ルージュが刀の手を持つ所に現れ、炎を纏った回し蹴りを持ち手に当てた。

ルージュ「プリキュア・ファイアーストライザー！」

強烈な回し蹴りで刀を落とすシンケン擬き。そこを一対の双剣を二

つ持ったアクアが追撃をかける。

アクア「キュアフルーレ・ツインスラッシュー！」

双剣化したフルーレを斬りつけ、今度は右手にトルネードフルーレとクリスタルフルーレ、左手にファイアーフルーレ、シャイニングフルーレ、プロテクトフルーレに持ち替え、敵に斬りつける。

アクア「キュアフルーレ・ファイブアタック！」

アクアの剣撃によつて動かなくなるシンケン擬き。そして、アクアはドリームとローズに声をかける。

アクア「決めなさいドリーム！ローズ！」

ローズ「好き勝手やつた分、ここで返させてもらひつわ！」

ドリーム「ローズ、どうせならアレを使おうよ」「みづみづ

ローズ「アレって？」

ドリーム「ハンター・コンビを倒したアレだよ」

ローズ「成程」

ドリームの言葉に気づいたローズはドリームの手を繋ぎ、両手に光を集め、それを押し出した。

ドリーム・ローズ「ツインローズ・シャインストーム！」

ピンクと紫の光を当てられたシンケン擬きは、ライオン、ジェット、レースカーを消し去り、海賊船の胴体のみにされた

ブライト「もう、動かないナリか・・・」

ワインディ「手足をもぎ取られたから大丈夫よ

だが、ブライトの期待を裏切るかの如く、海賊船のところに、恐竜の頭とドリル付きの尻尾、さらにバラバラになつたフォーミュラーカーのパーツが襲来した。

「何をする口?」「

ナッシー「まさか、合体するつもりナッシカ?」「

シロップ「何か嫌な予感がする口?」「

海賊船と恐竜とフォーミュラーカーが合体し、何とカンゼンゴーカイオーナンキとなつて復活した。

ドリーム「ほんのありなの・・・」

ローズ「本当に現れるなんて・・・」

ルージュ「勝てるのか・・・あれ・・・、」

まさかのカンゼンナキに驚くドリームを尻目にシャインは落ち着いていた

「慌てないで、手はあるわ」

そうこうとシャインはパイレーツに戻り、今度は拳銃を出した

レモネード「何ですかこれは?」

パイレーツ「これはキュアリボルバー。武器であり、召喚武器よ」

ミント「召喚武器?」

アクア「何を呼ぶの?」

そういうと、パイレーツは黒い4本の鍵と水色と黄緑の鍵を差し込んだ。そして、引き金を引くと光が放たれ、その光は、意外な者に

変化した。

ブライト「嘘でしょ！」

ウインディ「どうして、満さんと薰さんが……」

そこにはブライトの衣装を着た霧生満とウインディの衣装を着た霧生薰がいた。だが、それだけではない

ルージュ「な、何でダークルージュが……」

レモネード「どうして、ダークレモネードが……」

ミント「まさか、ダークミントが現れるなんて」

アクア「まさか、ダークアクアが出でるとば、これは一体……」

驚くのも無理はなかつた。そう、鏡の国で戦つたダークプリキュア5がルージュの目の前に現れるとは予想もしなかつたからだ。だが、しかし

ドリーム「けど、一人足りないよ」

ローズ「どうすんの？」

パイレーツ「大丈夫よ」

そつこづと黒い鍵を出し、携帯に差し込んだ

パイレーツ「プリキュアチョンジー！」

電子音『ダーコドリーム』

何と、パイレーツはダークドリームに変身した

ドリーム「ダークドリームにもなれるなんて……」

PDOドリーム「驚いて御免なさい。これは、キーをリボルバーに差

込み、引き金を引く事で、召喚するの。まあ、意思までは再現できないが、実力は本物と同じだ」

パイレーツの召喚に驚くドリーム達。それこそ、パイレーツが使う力の一つである。そして、強敵であるカンゼン擬きは果たして倒せるのか？

次回、カンゼン擬きよ。覚悟せよ。最強のコトボレーションを見せ  
てやる。

## 戦闘後編その3 5 g o g o & a m p ; S S組編（前書き）

g o g o & a m p ; S Sパート。これで完結。そして、ダークプリキュア5の合体技を見よ！

最終形態であるカンゼンゴーカイオー擬きと化した巨人擬き。しかし、こちらにはパイレーツが召喚したプリキュアと共に闘して対抗しようとしていた。

PDドリーム「行くわよ、皆。全員で怪物を倒しましょ  
ブライト」最終形態が相手なんだし、気合を入れないと  
ワインディ「そうね」

カンゼン擬きに対峙するプリキュア達。先に仕掛けたのはカンゼン擬きだつた。カンゼンのタイヤを使った突進が襲つてくるが、ドリーム達は必至に避ける。

ローズ「速い上にこの巨体。当たればひとたまりもないわ」  
ドリーム「でも、タイヤさえ何とかすれば、きっと勝てるよ」

ローズ「それはそうだけど、どうやって狙うの？」

PDドリーム「ここは私に任せなさい」

そういうとロードドリームはロレモネードとロアクアにアイコンタクトをかけた。するとロレモネードは脚から三日月のエネルギー弾、ダークネスフラッシュを放ちタイヤに当てた。そして、それをロアクアは手に持つた長剣でタイヤを斬り付け、タイヤをパンクした。これによつてカンゼン擬きは転倒した。Dドリームの戦法を見てルージュは感心した。

ルージュ「タイヤに攻撃して転倒とはやりますね」  
アクア「でも、油断はしないで」

倒れたカンゼン擬きは立ち上がり、今度は左手の指から大量のミサイルが放ってきた。

ロドリーム「大量のミサイルか。ならば」

その様子を見たロドリームは満と薰にアイコンタクトをかけ、風と光弾で大量のミサイルを打ち落とした。しかし、撃ちもられたミサイルがブライト達を襲おうとしていた。

ブライト「撃ちもらしたミサイルがこっちに来るよ」  
ワインディ「大丈夫よブライト。ここは私に任せて」

するとワインディは風の壁でミサイルを受け止めた。そして、それを球状に包み込まれ、巨大な空気弾に変えた。

ワインディ「ミサイル込みの空気弾よー受け取りなさいー。」

その空気弾をカンゼン擬きに当てた、それを見たブライトは

「ブライト「追撃よー光よー」

光弾を放ち、空気弾に当てさせ、空気弾に入っていたミサイルを爆破し、大ダメージを与えた、一時的に動かなくした。

ロドリーム「いい攻撃ね」

感心するロドリーム。しかし、カンゼン擬きもただではやられなかつた。今度は右手のドリルが襲おうとしていた。しかし、慌てる様子はなかった。今度はドルージュとロミントにアイコンタクトをかけ、火炎攻撃、ダークネスファイアーアーとエネルギー攻撃、ダークネ

ススプレッドを放ち、ドリルの威力を弱めた。そこへ

PDOドリーム「プリキュア・ダークネスショット！」

闇の光弾でドリルを破壊した。攻撃をしのいだドリーム達だが、カ  
ンゼン擬きは取つて置きの攻撃のロケットパンチ、ゴーカイカンゼ  
ンバーストを射出し、ドリーム達を襲おうとしていた。それを見た  
レモネードは

レモネード「焼け石に水になりますが。これで速度と威力を落とし  
ます。プリキュア・レモネードフラッシュ！」

レモネードの掌から無数の光の蝶を放ち、速度と威力を落とす事を  
試みたが、あまりのでかさの為、速度は落ちていなかつた。

PDOドリーム「一人では無理だが、協力すれば」

そこへS S組とダークプリキュア5が飛び道具を放ち、速度と威  
力をかなり落とした。速度を落としたロケットパンチはミントに迫  
るが

ミント「プリキュア・ミントプロテクションー！」

縁の全方位バリアで防ぎ、ロケットパンチを上空へ弾いた。ロケッ  
トパンチはカンゼン擬きの左手に戻る。

PDOドリーム「まだやるつもりだけど、そろは行かないわ。合体技  
を使うわ」

そういうとダークドリームの周りにダークルージュ、ダークレモネ

ード、ダークミント、ダークアクアが集まり、そして、ダークプリキュア5の掌に闇のエネルギーが集まる。

ＰＤドリーム「これがダークプリキュア5の合体技。プリキュア・ダークネスエクスプロージョン！」

ダークプリキュア5の掌から五つの闇の光弾が放ち、その五つの光弾は一つの巨大球になり、カンゼン擬きを襲う。カンゼン擬きはゴーカイカンゼンバーストを放つが、巨大球のパワーに耐え切れず破壊。そしてカンゼン擬きに大ダメージを与えて動けなくした。

ＰＤドリーム「貴方達、止めは任せるわ。もづ動けないから」

Ｐドリームの言葉を聞いたブライトは必殺技の準備に入った。

ワインディ「待ってブライト。満さんと薰さんがいますし、どうせならアレをやりましょ」

ブライト「そうだね。意思がないとはいっても、満と薰がいるみたいだし、やるうワインディ」

そういうとブライトはブルーム、ワインディはイーグレットに姿を変え、満と薰の所へ行つた

イーグレット「精靈の光よ！命の輝きよ！」

ブルーム「希望へ導け！全ての心！」

S S組「プリキュア・スペイナル・ハート・スプラッシュスター！」

台詞を言いつつ精靈の光を集め、四人同時に手を突き出し光を放つた。

それを見たドリームも必殺技の体制に入る。

ドリーム「私達も行こう。最後まで決めないと」

ローズ「それもそうね」

アクア「だったら、これが必要ね」

そして、アクアは自分が持っていた4本のフルーレをドリーム、ルージュ、レモネード、ミントに渡した。そして、必殺技の体勢に入る。

ドリーム「5つの光に！」

ルージュ・レモネード・ミント・アクア「勇気をのせて！」

G.O.G.O組「プリキュア・レインボーローズ・エクスプロージョン

！」

そして、一歩踏み込み突きの姿勢をとった後、フルーレから五色の薔薇が召喚し、その五色の薔薇が融合後、巨大な虹色の薔薇になつてカンゼン擬きに放つた。

そして、ローズはナツツから王の力を受けミルキィミラーを受け取つた後、必殺技の体勢に入る。

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌くバラを咲かせましょー！ ミル

キィローズ・メタル・ブリザード！」

決め台詞と同時に鉄紺色の薔薇吹雪を放つた。まず、精靈の光がカソゼン擬きに命中し、次に薔薇吹雪が敵の方に集まり大きな鉄紺色の薔薇に包み込まれ、最後に虹色の薔薇がカンゼン擬きを押し潰した。押し潰したカンゼン擬きは元の海賊船の模型、ジェット機、トーラー、レースカー、潜水艦、ドラゴンの模型、パトカー、ライ

オンの模型、侍人形、忍者装束、恐竜の模型、フォーミュラーカーに戻った

敵が居なくなつたので、変身を解除するドリーム達とブルーム達。そして、召喚したプリキュア達は光に戻つて消えていった。

のぞみ「ありがとうパイレーツ。私を助けてくれて」  
パイレーツ「礼はいいわ」

りん「そんなはずはないですよ。パイレーツがいなかつたらのぞみがどうなつていたのかわからなかつたし」

パイレーツ「確かにそうね。でも、貴方達自分を卑下しなくても言いわ。私は当たり前のことをしたんだから。それより貴方達には一つ言いたい事があるの」

うらり「言いたい事ですか？」

こまち「何かしら？」

パイレーツ「貴方達は近い内に400年前に消えた悪夢と戦つ事になる」

咲「400年前の悪夢？」

舞「何の事なの？」

パイレーツ「今は現れないが、時がたてば現れるわ。その事はラブや響にも伝えているから」

かれん「えつ、貴方、ラブや響に会つたの？」

パイレーツ「そうよ。既に言いたい事を言つてあるから」

くるみ「驚いたわね。まさか、ラブや響に会つているなんて」

パイレーツ「言いたいことはそれだけよ。それじゃ」

そういうとパイレーツはのぞみ達とは反対方向へ立ち去つたとするが

のぞみ「パイレーツ、まだどこかで会えるの？」

パイレーツ「会えるわ。その時は他のプリキュアと一緒になる時に

そういうてパイレーツは去つた。そして浄化した物を見てこれから事を考えていた。

ナツツ「これからどうするナツか?」

口口「浄化した物は警察に任せて、一度集合場所の広場へ行く口口」

のぞみ「そうだね。ラブちゃんや響ちゃんの事も気になるし」

咲「後はなぎさ達とつぼみ達だね。多分、広場へ来てるかもしけないし」

シロップ「その通りロップ」

くるみ「シロップ、あんた飛べるの?」

シロップ「大丈夫ロップ。休んだおかげで飛べるロップ」

のぞみ「シロップがまた飛べるようになつたし、一度広場へ行こう」  
そして、のぞみ達はシロップに乗り、一路広場へ向かつた。その様子を藍色の美女が見ていた。

? ? ? 「この世界、何かあるよつね」

そして、藍色の美女は広場へバイクを走らせた。

## 戦闘後編その3 5 ago ago&amp;S S組編（後書き）

次回、MH組とHC組のパート。相手は来月フォーゼと競演する映画に出るあいつだ。後、歌は気にするな これが最大のヒントだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6079x/>

プリキュアオールスターズ 出現！最強のプリキュア  
2011年11月27日17時56分発行